

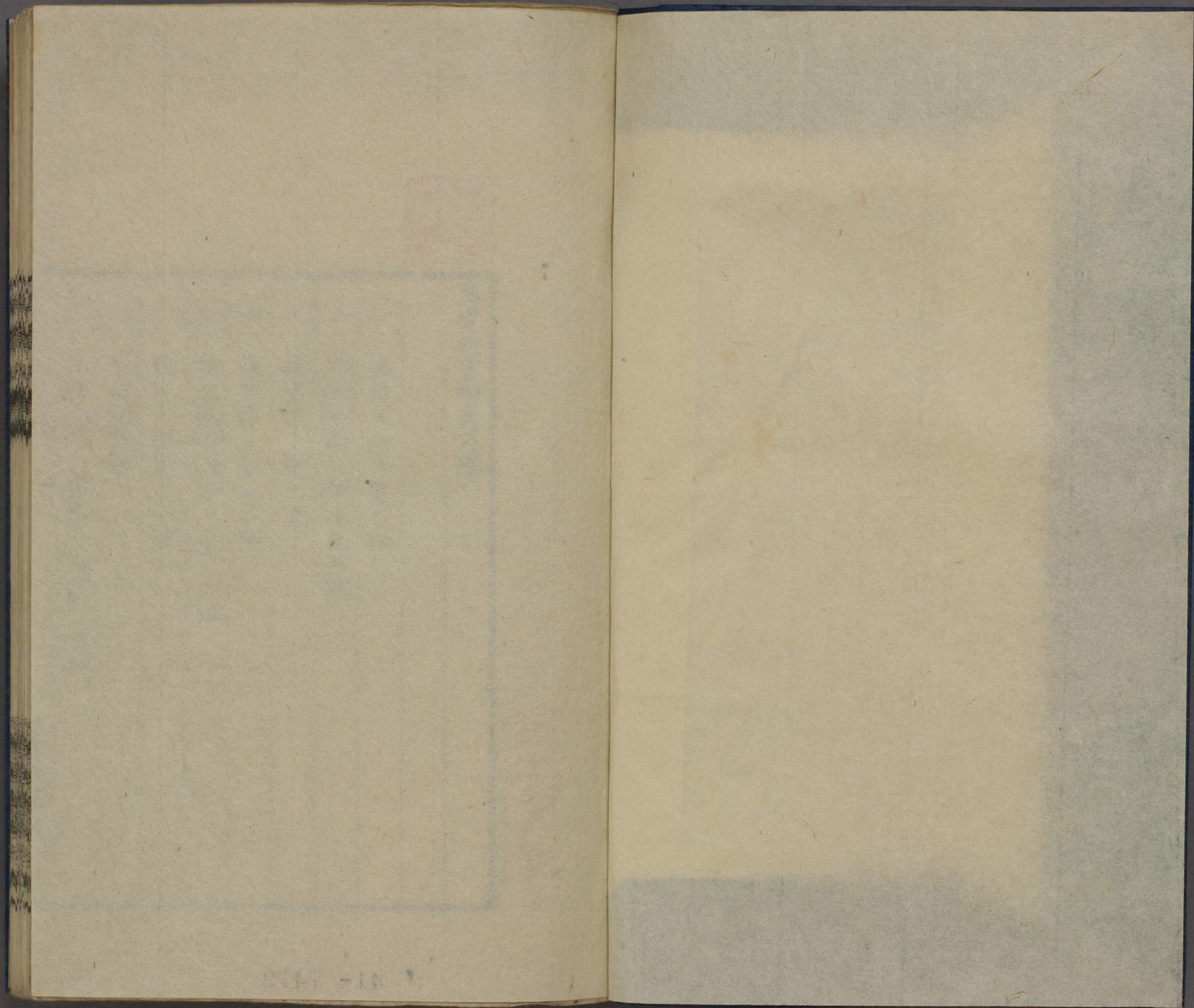
萬寶新書

初篇

未裝本製本

洋学文庫
文庫 8
C 88







萬寶新書初篇目錄

- 一 果類ヲ久ク蓄ル法
- 二 亞落路粉ノ試法及用法
- 三 醋ヲ善ク貯ル法
- 四 懷中醋ヲ製スル法
- 五 澄白琥珀假漆ヲ製スル法
- 六 琥珀ヲ釘著スル法
- 七 風雨鍼驗法
- 八 卧褥ニ用ル羽毛ヲ淨製スル法

萬寶新書

目錄

上卷 妻成文已



九	蟻 ^{ムシ} 賊 ^ト ヲ貼 ^シ スル法
十	釘 ^{ナギ} 書 ^カ 工 ^コ ノ用 ^ニ ル金液ノ法
十一	書籍ノ黴 ^{カビ} ヲ防 ^グ グ法
十二	樹木ヲ植 ^ル ニ石灰ヲ用 ^ヒ テ利益アル法
十三	火傷 ^{ヤケド} ヲ治 ^ス ル法 又一法 又一法
十四	蜂螫 ^{ハチ} ノ痛 ^ク ヲ治 ^ス ル法 又一法
十五	三鞭酒ヲ擬 ^シ 製 ^ス ル法
十六	蘇魯林水 ^源 白 ^水 ヲ製 ^ス ル法 又一法
十七	葡萄ヲ貯 ^シ 藏 ^ス ル法
十八	鶏ニ多ク卵ヲ生 ^シ ムル法

十九	水ヲ漚 ^ス ス法
二十	玻璃 ^{キヤウリン} 壺 ^ヒ ヲ淨洗スル法
二十一	鹽藏食物ノ鹽氣ヲ脱 ^ス ル法
二十二	義布 ^{ガキ} 硫酸 ^{スル} ニテ捏 ^チ 造 ^ス セル塑像ヲ堅固ニスル法
二十三	火腿 ^{ワカシ} 及 ^シ スベ ^キ 家猪ヲ貯 ^ル ル法
二十四	木材ノ腐朽ヲ防 ^グ グ法
二十五	木材ヲ接 ^著 シテ水濕ニ堪 ^ル ル鰐膠ノ法
二十六	木具ニ光輝ヲ與 ^ル ル塗劑ノ法
二十七	隱見紙ヲ製 ^ス ル法
二十八	赤色墨汁ヲ製 ^ス ル法 又一法

二十九 綠色墨汁ヲ製スル法 又一法

三十 黃色墨汁ヲ製スル法

三十一 青色墨汁ヲ製スル法

三十二 記號墨汁ヲ製スル法

三十三 久ヲ經テ變更セザル墨汁ノ法

三十四 亞鉛上ニ書スル墨汁ノ法

三十五 象牙ニ鍍銀スル法

三十六 黃色ニ爲リタル象牙ヲ澄白ニスル法

三十七 イ、グト痛ヲ治スル法

三十八 齧齒痛ヲ鎮止スル法

三十九 陷凹齧齒痛ヲ鎮止スル法

四十 解熱劑ノ法

四十一 燥道ヲ用テ黃銅ニ銀ヲ鍍スル法

四十二 濕道ヲ用テ黃銅ニ亞鉛ヲ鍍スル法

四十三 銅綠ノ毒ヲ防グ法

四十四 寒脫疽ヲ治スル法

四十五 無烟ノ燈心ヲ製スル法

四十六 革ニ水ヲ浸溜セザラシムル法

四十七 リモナアテ散ヲ製スル法

四十八 利諾布ニ水ヲ浸溜セザラシムル法

四十九 鉛ニ錫ヲ鍍スル法

五十 引火奴ツケギ發自然ニ大スル者ヲ製スル法

五十一 陶器ヲ接著スル膠ノ法 又一法 又一法

五十二 木石玻璃ヲ接著スル膠ノ法

五十三 荏油假漆ノ法

五十四 鍍金ノ邊縁ヲ淨刷スル法

五十五 健胃苦味酒ノ法

五十六 健胃酒ノ法

五十七 口瘡ヲ鎮止スル法

五十八 馬德辣酒ヲ製スル便法

五十九 大理石ヲ彩飾スル新法

六十 速ニニ烱解スル合金ノ法

六十一 雜樹ニ生スル苔蘚ヲ除ク法

六十二 依蘭茗飲ノ法

六十三 無炎ノ夜燈ヲ造ル法

六十四 衄血ヲ止ル法

六十五 油ヲ貯藏スル法

六十六 油ヲ淨清スル法

六十七 果類ヲ貯藏スル法

六十八 オボテルドヲ製スル法

六十九 牛膽ヲ製煉スル法

七十 馬ノ鞍傷ヲ治スル法

七十一 馬足ノ痺麻質痛ヲ治スル法

七十二 描画ニ用ル透明紙ヲ製スル法

七十三 水記紙ヲ製スル法

七十四 圖画ヲ彩色スル為ニ紙上ニ塗ル膠水ノ法

七十五 バルケメント紙透明ニ用ル景模ヲ製スル法

七十六 鹽肉法ニ地帯ヲ製スル法

七十七 植物ヲ冬ク保有スル法

七十八 植物ノ葉蟲ヲ驅除スル法

七十九 動物植物ヲ好ク保有スル法

八十 植物ノ汚斑ヲ洗ヒ除ク藥水法

八十一 鏤版ノ圖画ヲ彩色スル法

八十二 白金綿グラハナヲ製スル法

八十三 禽類ノ説

八十四 髪ヲ生スルホマーデ我邦ノ鬘油ノ法

八十五 磁器ヲ接著スル膠ノ法

八十六 玻璃壺及陶瓶等ヲ淨洗スル法

八十七 鋼筆ノ鏽ヲ防グ法

八十八 鐵及鋼ノ鏽ヲ防グ法

八十九 玫瑰蜜ヲ製スル法

九十 鞋ヲ塗リテ光澤ヲ生スル塗料ノ法

九十一 鞋ヲ塗リテ水ノ浸溜ヲ受サル塗劑ノ法

九十二 美艷膏ノ法

九十三 美艷香水ノ法 佛蘭西ノ法ニ據ル

九十四 銀ヲ磨光スル粉劑ノ法 又一法

九十五 車駕ニ裝著スル革ニ光澤ヲ與ル塗料ノ法

九十六 機盤ヲ活利ニスル塗劑ノ法

九十七 絨布ヲ汚セル脂油ヲ除ク法

九十八 外氣ニ曝觸スル木材ヲ髹ル塗料ノ法

九十九 海綿ヲ漂白スル法

百 發酵セル養料ノ滋養ニ益アル説

百一 石炭ノ碎屑ヲ燒ク法

百二 石膠ノ法

百三 煖室火箱或竈窠等ノ破隙ヲ塗ル填塞料ノ法

百四 鐵ノ填塞料ノ法

百五 利諾布ニ記號ヲ印スル墨汁ノ法

百六 磨革ヲ製スル法

百七 齒ヲ磨白スル法

百八 ハヘラント 人名ノ磨齒粉ノ法

百九 家猪肉ヲ貯藏スル法

百十 粗大ノ鐵具ニ塗ル染料ノ法

百十一 焚燒ヲ防グ假漆ノ法

百十二 褐色假漆ノ法

百十三 護謨會刺斯知加ノ假漆ヲ製スル法

百十四 銅或他ノ金屬ニ塗ル假漆ノ法
尋常落古 微澄亮ノ落古 精
黄色落古 淡黄色落古 鮮黄色落古 鮮綠
色落古 帶黄色落古 黄金色落古

百十五 彈カアル假漆ノ法

百十六 鐵器ニ塗ル假漆ノ法

百十七 錫及白金ヲ鍍スル法

百十八 汚斑ヲ除ク法

百十九 猩紅絨及天鷲絨ノ汚斑ヲ除ク法

百二十 車旋船暈ヲ治スル法

百二十一 黃蜂ノ螫痛ヲ治スル法

百二十二 野生ノ禽畜殺セル者ヲ貯藏スル法

百二十三 樹木ヲ害スル野獸ノ患ヲ防グ法

百二十四 凍瘡ヲ防グ軟膏ノ法

百二十五 酒痕ノ汚斑ヲ除ク法

百二十六 鐵具ニ塗ル填塞料ノ法

百二十七 鐵具ニ光輝アル黒色ヲ與ル法

百二十八 鐵器ヲ堅剛ニスル法

百二十九 穀類及蔬菜ヲ播種スル法

百三十 馬鈴薯チヤウライモヲ用テ錫布水セシダクミズヲ製スル法

百三十一 透明ナル錫布サホンヲ製スル法

百三十二 獸毛或ハ植材類ノ腐朽ヲ防ギ久ニ堪シムル

法

百三十三 傳染病ヲ豫防スル法

百三十四 蕁麻ノ藥能アル説

百三十五 木及石ノ縫塞料ノ法

百三十六 鴿トビヲ好テ己ガ棲房ニ歸ラシムル法

百三十七 氣燈盤ニ用ル蒸料ノ法

百三十八 黄金ヲ淨潔スル法

萬寶新書初篇

美作

宇田川瀛興齋譯述

一 杲類ヲ久ク蓄ル法

凡杲類ヲ久ク貯藏スルニハ。秋分務メテ長ク其枝上ニ有_レタシメテ。後是ヲ收メ。其外面ヲ善ク晞カシ。乾燥セル淨砂中ニ。每段累積シテ。燥處ニ貯フ。○此調護能ク其法ヲ得レバ。次年ノ夏分ヲ終ルマテ。毫モ其態ヲ變ゼズ。且其味ヲ損スルコトナシ。○英吉利挽雅及ヒ諸地ニテ。此蓄藏法ヲ稱用ス。

二 亞落路粉ノ試法及用法

亞落路粉ハ「マランタアルンゲナカ」草名〇按ニ蘭名「インゲイセペールオルテル」印
 度産野葱ノ澱粉ニメ。諸般虚衰ノ患者ニ用ヒテ消化ン易ク。
 且ツ滋養ノ功アリ。〇此物毎ニ不正ノ物ヲ交エ。或ハ麵粉。馬鈴
 薯粉及ヒ他ノ糊粉。澱粉。砂谷粉類ノ如キ。全ク他ノ成分ヲ以
 テ調和シ偽造スルモノアリ。〇「ラムバ」名ノ説ニ據レバ。
 麵粉ヲ用テ偽ハルモノハ。水ヲ加エテ搗攪スレハ。粘稠ナル
 糊質分レ出ルヲ以テコレヲ知ル。小麥。或ハ馬鈴薯ノ糊粉ヲ
 和シ偽ハルモノハ。稀硫酸ヲ加エテ煮沸セシムレバ。小麦分
 ハ。帶黃褐色ノ粘汁ヲ呈ス。又亞落路ハ。酒黃色ニ。馬鈴薯糊

分ハ一種未熟ナル蕪薯ニ固有セル如キ臭氣ヲ發綻ス。
 亞落路粉ヲ用ル良法ハ。此粉一分ニ水一分餘ヲ和シ。攪混シ
 テ泥ト成シ。而ル後。コレニ水二十分ヲ加エ。熬テ十六分ト為
 シ。得ル所ノ粘汁ヲ患者ノ稟性ニ隨テ。適宜ニ甘乳汁。砂糖等
 ヲ擇ヒ和シ用フヘシ。

三 醋ヲ善ク貯ル法

醋ニ其精氣ヲ失ハシメズ。久クコレヲ保ツニハ。痲醋ニ酒酸
 ノ發酵ヲ促ス者。設ハ。燒酒。砂糖。麦。干。葡萄酒。酸性酒ノ如キ物
 少許ヲ加エ。薫テ些少ノ釀母ヲ和シ。發酵セシメテ。醇良ト成
 スベシ。之ヲ製スルノ間。善ク大氣ヲ通暢シ。氣中ノ酸素ヲノ。

能ク其液中ニ窺入セシム可シ。

四 懷中醋ヲ製スル法

細キ酒石適宜ヲ取り。精醋ヲ以テ潤シ。コレヲ爐中ニ乾カシ。而ル後。復細末ト為シ。再醋ヲ以テ潤シ。乾カスコト。大凡四五回ニノ。其物ヲ密塞小玻璃罎ニ貯フ。○即時ニ流動醋ヲ要ムルニ方テハ。此末一分ニ六倍ノ水。就中白酒ヲ和シ。五密罎ノ後。酸液中ニ溶ケザル所ノ酒石ヲ沈降セシメ。用ニ供ス。

五 澄白琥珀假漆ヲ製スル法

舊秤一斤ノ荏油ヲ新シキ壺ニ盛リ。其正中ニ一條ノ杆ヲ直立セシメテ。其油面ノ高ヲ測リ。又同量ノ清水ヲ其中ニ加エ

入レ。復杆ヲ以テ其高ヲ定メテ。按ニ水ハ重クノ其下底ニ沈
油ハ輕クノ其上ニ浮段ト為レテニコレヲ火上ニ致シ。オムベル。綠礬或ハ金密陀丹

礬或ハ鉛丹各舊秤一羅度ヲ合セ棉布ノ袋ニ容レタルヲ水ニ蘸サバルヨウ。恰好其油中ニ懸垂シ煮ルベシ。○油上泡沫ヲ浮ムトキハ。其泡ヲ扱ヒ除キ。務メテ緩々ニ熬テ。其水蒸發シ盡ルヲ度トシコレヲ止ム。但シ。杆ヲ用テ測リ。其水ノ盡ルヲ知ルナリ。

サテ。別ニ適宜ノ分量。譬ハ。舊秤八羅度ノ粉細淨白琥珀。及ヒ同量ノ粉細ゴム、コバルヲ合ヒ。淨キ銅壺或ハ新シキ土壺ニニテ熔解セシム。○但シ先。銅壺ハ熾紅シ。土壺ハ極メテ熾熱

ナラシメテ後。右ノ二物ヲ齊シク壺中ニ投シ。悉ク熔解ノ水
 ノ如ク滴瀝ス可ニ至ルマデ。絶エズ鐵棍ヲ以テ攪和スベシ。
 ○此度ニ至リテ。前ニ記セル油劑ヲ熱セルマ、徐々ニ其中
 ニ瀉シ入レ。亦善ク攪和ス。此内慎テヨク火度ニ注意シ從事
 是ニ由テ。得ルメテ美觀ノ佳品ヲ得ルナリ。○此ニ於テ。壺ヲ火ヨリ下シ。其劑ヲ稍
 冷ナラシメ。其尚温ナル間ニ。適宜ノ帝列並底那ヲ徐々ニ注
 加シ。手ヲ止メズ攪和シ。適度ニコレヲ稀ムベシ。○兩日ヲ經
 ルノ後。此假漆ヲ棉布ニテ漚シ貯フ。

此假漆ヲ以テ木具ヲ髹ント欲セバ。先其器ヲ善ク磨キ。平滑
 ト成シテコレヲ塗リ。乾ケバ再復塗ルベシ。○全ク堅固ニ乾
 ケル後。スクール、ビース。及ヒ水ヲ以テ磨キ。漸次ニ細キ浮石
 及ヒ水ヲ用ヒ。最後ニトリール粉。及ヒ木油ヲ以テ磨ク
 ベシ。○此方法ヲ遂ゲタル後。尚麵粉按ニ角石代ヲ。或ハ髮粉用スベシ
 以テ善ク淨摩シテ。其本原ノ光澤ヲ得ルナリ。

六 琥珀ヲ鉦著スル法

乳香ヲ光焰上ニテ徐々ニ熔シ。鉦著セント要スル所ノ琥珀
 ノ破口ヲ炭火上ニテ稍煖メタル者ニ之ヲ塗リテ固ク膠托
 シ。保持ノ冷定セシム。○此鉦藥ハ。頗精好ニシ。且其接際ヲ
 察ス可ラザラシム。

七 風雨鍼驗法

風雨鍼。即^ナ在^ニ所謂候氣儀ハ。常ニ鉛直ニ固定シ。若クハ移動スベカラサルヨウ。壁面ニ懸掛スベシ。

筒中ノ水銀朝第九時我晝夜平分時朝五半時ニ當ル前後最高ノ處ニ在リテ。其後纔ニ降り。晚ニ向テ復稍升ルハ。天氣連晴ヲ報ズ。然レドモ。日中ニ舛リ。夜中若クハ晨ニ降ルハ。天氣更變不同ヲ知ル。○夏天熱日。暴雨將ニ來ントスルトキハ。水銀上舛シ。雨已來レバ。復下降ス。○冬天。水銀上舛スルハ。暴冷ヲ報ス。舛テ降ラザレバ。沍寒醸雪ヲ報ズ。降レバ。消雪ヲ報ス。○水銀ノ舛降定ラザレハ。晴雨驟ニ更變ス。又稀ニ二三日間續テ舛降アリテ。天氣亦久シク定ラザルコトアリ。○水銀ノ移動定ラザル

ハ亦同様ノ兆ヲ報ス。○徐風。殊ニ南風。及ヒ第十月。又ハ十一月按ニ我九月十月ノ頃天晴ル。ノ時ニ於テ。水銀下降スルハ。驟雨。或ハ雪ヲ報ス。○一雨ノ後。水銀驟ニ上舛シ。殊ニ此ニ於テ。風南ニ轉スルトキハ。近日仍多ク雨アルコトヲ知ル。○月暈アル時ニ於テ。水銀下降スルハ。必雨。又ハ雪アルヲ報ス。○正南風。若クハ南西風ノ時ニ方テ。水銀下降スルハ。直ニ雨ノ徵トス。○晴日。早天ニ於テ。一雨ノ後。風南方ヨリ西。及ヒ北ニ廻リ。遂ニ東ニ轉スルトキハ。必美日ト成ルヲトスベシ。○美天打續キ。且北風ナル時。水銀已高處ニアリテ。仍舛ルハ。風西ニ轉スルコトアラザル内ハ。必雨アルコトナシ。○南風ニテ。連日

雨天ナル時ニ於テハ。水碓高ク舛リ。風又北ニ轉セサル内ハ。妍晴ヲ期ス可ラス。○曉天甚殷ク。且、雲霧速ニ空ヲ覆ヒ。水碓降レルマ、動カザルトキハ。同日仍雨若クハ雪アルベシ。○風差北ニ偏シ。水碓降レハ。雨及ヒ連日多雨ヲ報ス。○雨後。風南ヨリ西又北ニ廻リ。水碓上舛ヲ始ムルトキハ。雨仍降ルト雖。是ニ於テ。速ニ止シ。コトヲ決スベシ。○兩三日快晴打續キ。水碓甚低處ニ留リ動カザルトキハ。必強風或ハ大雨ノ來ルベキヲ察ス。○水碓仍高處ニ留ル間。天狼星ノ見ルハ。通常兩ノ確徵ナルコト明ナリ。○水碓降り。殊ニ風北ヨリ南ニ轉シ。大氣濕潤温蒸スルトキハ。繁露或ハ雨ヲ報ス。○第三月

頃月ニ於テ。水碓異常ニ高ク舛ルハ。其夏日必熱スル歟。若クハ然ラザルモ。一時續ヒテ早天アランコトヲ報ス。○水碓異常ニ低ク降レトモ。其地ニ於テ。曾テ非常ノ氣候ヲ見ザルトキハ。必其近隣ノ地方ニ變動アリシコトヲ知ル。

八 卧褥ニ用ル羽毛ヲ淨製スル法

不潔ニノ惡臭アル羽毛ヲ。樽若クハ桶ニ容レ。是ニ錫布水或ハ曹達水ヲ注ギ。椀杖ヲ以テ攪動ノ善ク洗淨ス。○斯ク洗滌セル後羽毛ヲ手ニテ握托シ。之ヲ空氣通暢ノ處ニ攤ケ乾カシ。時々轉繙メ。箆或ハ竹杖ヲ以テ撃テ打クヘシ。○是ニ由テ。羽毛全ク淨潔シテ脂分ヲ脱シ。従前ノ弾カヲ具ヘ得ルナリ。

九 蟻鍼ヲ貼スル法

蟻鍼ヲ貼スルニ方ヲ。毎時之ヲ適宜ノ部位ニ致スヲ苦シム。
○クエイセ名氏法アリ。先、灰色無膠紙ヲ取り、膚上ニ水蛭ヲ
貼ント要スル部位ヲ量リテ。是ニ隨意的合ノ數口ヲ剪リ開
キ。而ル後之ヲ水ニ蘸シテ膚上ニ置ク。○サテ。設ハ。是ニ麥酒
盞ヲ以テ其部ヲ覆ヒ。水蛭這ヒ出テ、他ノ赤膚上ニ吸著セ
ザルヨウ為スベシ。

間。蟻鍼ニ鹽ヲ抹カケ。其血ヲ噴カシムルモノアレトモ。斯ク
為セル者ハ。水蛭ヲメ病ヲ起シ。且、斃レシム。○然ルニ。其頭部
ニ向テ。烟草ノ烟ヲ吹キ著レバ。水蛭眠ルガ如クナリテ。終ニ

其血ヲ吐出ス。此法ヲ用ルモノハ。二小時ヲ經ルノ後、復、用ニ
供スルニ足ル。○又或ハ蟻鍼ノ尾ヲ拈リテ。一條ノ紐ノ如ク
兩指間ニ挾ミ曳キ搾リテ。血ヲ其口コリ吐出セシムルコト
アリ。此法ヲ用ルモノハ。水蛭ニ害ナク。久ク生活スレトモ。
此暴刺ナル所置ニ由テ。其水蛭復、能ク利用ス可ラサルニ至
ルベシ。

十 釘書立ノ用ル金液ノ法

普通其革ヲ黒斑ニ染、做スニハ。水ヲ以テ稀メタル鐵液綠礬
溶液ヲ用レトモ。赤色ニ染ルニハ。金液ヲ用ユ。○其法。金箔ヲ
鹽酸海鹽精及ビ強水硝酸ノ和劑中ニ投ジ。復、溶解セザルニ

至リ。此溶液ヲ再清水ニ稀釋ス。○之ヲ用レバ。其華已ニ暗赤色ト為ル。又能ク消セバ。紫赤色ト為ル。○其華帶ハ蘇魯林水素酸ヲ用テ製練シアルベシ。

十一 書籍ノ微ヲ防ク法

書籍ノ微氣ヲ防グニハ。家室ノ卑クノ且陰濕ナル處ニ在ル書籍中ニ。一二ノ揮發油ヲ備ヘタル物ヲ置ケバ。其害ヲ受ルコトナシ。

十二 樹木ヲ植ルニ石灰ヲ用ヒテ利益アル法

樹木ヲ植ルニ。石灰少許ヲ用テ頗裨益アリ。○獨逸ニ於テ。四シケール量名。一シケールハ五外四合九タニ當ルハノ石灰ヲ一モルゲン百六

ル。平地ノ地面ニ和スルヲ適當ノ量トス。但シ樹苗ヲ植ル前ニ。石灰ヲ十分平等ニ善ク其土ト和合セシムベシ。○石灰ニ由テ。大ニ生カヲ増シ。速ニ新根ヲ生シ。深く地中ニ入テ。善ク樹幹ヲ固メ。著ク其生長ヲ資グ。○此試用ニ於テ。初ハ人或ハ石灰ヲ為ニ其樹甚速ニ蕃茂スレトモ。終ニハ羸瘦センコトヲ疑ヘリ。○然レドモ。經驗ニ由テ。從來何レ地方ニ於テモ。其事アルヲ見ズ。且酷ク障害アル風ニ中リ。或ハ他ノ厄災ニ罹レルコトアルモ。此法ヲ用ヒタル樹木ハ。曾テ其患ナク。平常ノ如ク生長スルノ益アルガ故ニ。其説果ノ非ナルコトヲ知ル。

十三 火傷ヲ治スル法

米里堅ノ治療書中。タ子ストク^クノ説ニ曰。火傷ヲ治スルノ妙法ハ。綿絮ヲ安息香丁^ク燄劑ニ蘸シ。之ヲ以テ創處ニ卷布スレバ。痛ヲ催スコトナク。頗能ク鎮靜ノ平愈スト。○一兒大火傷ヲ被レル者ニコレヲ施セシニ。四分一密扭篤ニ其痛ヲ消シ。又生レテ第四月ノ嬰兒。融化セル脂油ノ為ニ火傷ヲ受タル者ニコレヲ與フルニ。十密扭篤ノ後ニ。其啼泣ヲ情レルヲ以テ。疼痛ノ消スルヲ知レリ。

又一法

六歳ノ兒。嘗テ過テ其両手ヲ熾ニ焚燒セル竈火中ニ落セシ

ニ。其座ニ在ケル老祖母。尚仕健ナルガ故ニ。其兒ヲ抱キ。両手ノ傷部ヲ水中ニ保持セシメ。ンカ為ニ。急ニ厨房ニ至リシニ。登時其別室ニ。新製蜂蜜ヲ充タル甕アルヲ目取シ。痛楚可施ノ術ヲ知ラス。忙ハシク兒ノ両手ヲ其中ニ差シ入レタルニ。其疼頓ニ鎮靜セリ。○其日ヨリ次日ニ至ルマテ。續ヒテ其手ヲ蜜中ニ保持セシメシニ。第二日ノ後。其創處損傷セズ。毫モ疼痛ヲ覺エズ。早已ニ平癒シ。亦全ク水疱ヲモ發セザリシナリ。

又一法

輕キ火傷ニテ。其侵蝕表皮下ニ徹セザルホドノ小創ニ於テ

萬寶新書
ハ。單ニケレオソトヲ用テ其患部ニ潤スヲ最良ノ要訣トス。若シ著ク傷割ヲ蒙ルモノニ在テハ。無膠紙ヲケレオソトニ蘸テ割上ニ置キ。時々之ヲ潤スヲ良トス。○統テケレオソトハ。苛烈ナル侵蝕性アル者ニ。觸ル、處劇痛ヲ起スガ故ニ。豫戒慎ヲ加工從事ノ間。誤テ眼中ニ浸入セザルヨウ注意スヘシ。

十四 蜂螫ノ痛ヲ法スル法

少許ノ刺篤ボット亞斯アス或ハ藍澱ヲ割處ニ貼布スレハ。即時ニ其痛ヲ減ズ。

又一法

蜜蜂ニ螫レタル時ニ方テ。其割處ニ蜂蜜ヲ塗レバ。殆一瞬間ニ其焮痛及ヒ痒氣ヲ鎮止スベシ。

十五 三鞭酒ヲ擬製スル法

三鞭酒ノ色ヲ備ヘタル所ノ上好白酒ヲ用テ速ニコレヲ製シ得ベシ。其法。甘味ノ度ニ隨テ。舊秤ニ羅度乃至三羅度ノ細末冰糖ヲ加ヘ。能ク混和溶解シテ後。之ヲ三鞭酒壺ニ填チ。每壺ニ細末酒石及ヒ刺篤亞斯各四分一羅度ヲ加エ。急ニ之ヲ枹塞ニテ緊結シ。瀝青ヲ塗り固封ス。○此壺ヲ一二小時間窖中ニ置ケハ。三鞭酒透澄トナリテ。乃隨時之ヲ用ヒ得ベシ。

十六 蘇魯林水漂白水ヲ製スル法

漂白水即蘇魯水ヲ製スル法左ノ如シ。○五羅度ノ鉛丹及ヒ
 二羅度共ニ舊秤ノ食鹽ヲセルペンテインスター茶磨石ノ臼
 ニテ併セ磨リ。是ニ四升ノ淨水ヲ除々ニ注ギテ善ク和合セ
 シメ。而ル後。畧水六升ヲ納ベキ玻璃壺ニ此和劑ヲ瀉シ納ル。
 ○此赤色ノ濁液ニ。手ヲ止メズ振盪シツ。二羅度ノ發烟硫
 酸ヲ滴シ加エ。爾後仍能ク屢振盪ス。二十四小時ヲ經ルノ後
 乃所謂諸種ノ絨緞絹帛類ヲ漂白スルニ要藥ナル蘇魯林水
 ヲ獲ルナリ。○此米利堅ニテハ。此法ニ據リテ漂白水ヲ多量
 ニ製シ。樞軸ヲ具ヘタル桶ヲ水平ニ安置シ。旋轉ノ善ク混和
 スベク設施シ。此水ヲ用テ棉布ヲ漂白スルニ供ス。

又一法

トウルトイ人名速ニ之ヲ製スルノ法アリ。○玻璃壺ニ淨
 水二升半。硫酸九百十八古。食鹽二百八十古。細粉鉛丹二百四十
 八共ニ舊秤ヲ納レ。振盪メ善ク混和セシメ。密封シ貯フ。

十七 葡萄酒ヲ貯藏スル法

葡萄酒ハ。乾ケル糠中ニ貯エテ能ク久ニ堪フベシ。○然レドモ。
 其内一類ノ葡萄酒濕潤スルトキハ。糠ヲメ發酵セシメ。遂他ノ
 葡萄酒ヲ侵蝕スルニ至ルガ故ニ。糠ニ代エテ枹木ノ鋸屑。或ハ
 乾ケル灰ヲ用テ之ニ填テシムルヲ最良トス。○此故ニ。斯ク
 貯藏セル葡萄酒ヲ食用セントスルニ方テ。先之ヲ微温湯中ニ

投シ而ル後。冷處ニ乾カシムルコトヲ要スヘシ。

十八 鶏ニ多ク卵ヲ生シムル法

冬季鶏ニ多ク卵ヲ生シムルニハ善ク穢熱セル葶麻子ヲ其食餌トシテ與フヘシ。○此種子ヲ取ル法ハ長大ノ葶麻子ヲ第八月我七ノ末季ニ刈リ聚メ好ク曝乾スレバ種子自オ綻落ス。故ニ容易ニ之ヲ收納スヘシ。

十九 水ヲ濾ス法

過カケ銚シセザル大甕ヲ取り其下底ニ一口若クハ數口ヲ鑿チ一塊ノ海綿ウニ又ハ洗淨セル蘚苔ヲ置キ而ル後淨砂或ハ木炭ヲ其甕ノ三四分ニ填テシム但シ木炭ハ豆大ニ擊碎キ用ユベ

シ。○此上ニ棉布又ハ絨片ヲ覆ヒ窪ケ寬ク甕邊外ニ達セシメテ水ヲ其上ニ澆ゲバ其水濾過ノ甕ノ下口ヨリ漏出スルナリ。布絨及ヒ砂炭海綿蘚苔等ハ屢々淨水ニテ洗過スルコトヲ要ス。又木炭ニ代ヘテ或ハ獸炭石角即煨骨石角ヲ用ヒ得ベシ。○甕ハ寬大ナルニ隨テ其用愈鉅ナリ。但シ其差短小ナルモ居家日常飲用ノ為ニハ亦頗便要トスルニ足ル。○斯ノ簡易ナル装置ハ彼ノ精錡シヲ用テ設施スル者ヨリハ其法太良ナリ。精錡ハ固ト毒性アル者ニシテ水中及ヒ大氣ニ觸レテ甚酸化シ易ク且一旦酸化スレバ其一分ハ水ニ溶解ノ舍密セノ理ヲ以テ水ト抱合シ共ニ濾過シ出ルガ故ニ夫ノ金質ヲ喻收スル

所ノ炭ノ為ニモ分離シ得可ラザルニ至レバナリ。

二十 玻璃壘ヲ淨洗スル法

綠玻璃壘ヲ洗滌スルニ霰丸狩獵ニ用ル小鉛丸ヲ用ルヲ良トスレドモ更ニ善ク淨滌スルニハ之ニ由テ其鉛令剥落ノ壘ノ内面ニ著キ此ニ受容スル液類ヲ害スルガ故ニ夫ノ水精玻璃ヲ洗滌スルニ細砂ヲ用ルガ如ク一般ニ此方法亦甚賞用ス可ラズ但シ砂ヲ用レバ玻璃ニ細疵ヲ生スレバナリ○故ニ各種玻璃壘ヲ善ク淨滌スルニハ灰色無膠紙ノ小球子ヲ壘中ニ入レ微温ノ錫布水ヲ澆キ周ク振盪シ而ル後清水ヲ用テ洗淨スルヲ最良法トス

二十一 鹽藏食物ノ鹽氣ヲ脱スル法

強ク鹽藏シタル物ヲ水煮メ淨潔ニ洗滌セル海綿ウレタンヲ其中ニ投スレバ極メテ善ク其鹽氣ヲ脱除スベシ○蓋其海綿能ク水中ノ鹽氣ヲ啗収スレバナリ。

二十二 義布スズ斯硫酸加ニテ捏造セル塑像ヲ堅固ニスル法

捏造セル義布斯ノ表面ヲ堅固ニ成シテ大理石ノ觀ヲ為サシムルニハペンワール人名ノ法ニ隨テ一介半和蘭秤ノ明礬ヲ二或ハ三盃ノ水ニ溶解ノ之ヲ温メ捏造物ヲ十五乃至三十密扭篤ノ間其中ニ没入セシム○其物乾ケル後ニ其冷エタ

ル溶劑ヲ是ニ灌注シ。其表面ニ結ベル細晶様ノ外皮ヲ砂紙紙即磨ニテ礪リ落シ。水ニ潤セル棉布ヲ用テ磨キ上ベシ。

二十三 火腿及スペッキ家猪ヲ貯ル法

火腿及ヒスペッキヲ貯ルニハ。之ヲ麩麩ノ中ニ藏スレバ。腐壞スルコトナク。其久キヲ經ルモ。鮮白ニメ新ナル者ノ如ク。且其味極メテ美ナリ。加之。其麩麩モ亦腐敗スルコトナシ。

二十四 木材ノ腐朽ヲ防グ法

一、イ、ル、マルガレイイ名ノ法ニ。硫酸銅緑ト水ノ飽和液或ハ是班牙綠班ニナシノ溶液。及ヒ水ト木醋ノ和劑等ヲ用テ。木材及ヒ繩索類ノ腐朽ヲ防グベシ。○此液中ニ其物ヲ能ク飽充セシメテ

後。木材ハ善ク乾カシ。繩索ハ緊ク一聯ニ束テ曝カスベシ。但シ。其二種ノ物ヲ浸ス時間ハ。其品質ノ態制ニ係レリ。

二十五 木材ヲ接著シテ水濕ニ堪ル鰾膠ノ法

ドドル名氏氏ノ發明セル固ク桶ヲ合著スルニ用ル所ノ水ニ堪ル鰾膠ノ法左ノ如シ。○新秤ニ羅度ノ鰾膠ヲ半盃ノ水ニ和シ熬テ。試ニ指頭ニ粘シテ膏脂ノ如ク。又箱匣ノ用ル粘膠ノ稠ト為リ。十分溶解スルニ至リテ。是ニ七。或ハ八羅度ノ煎熬荏油ヲ加ヘ。仍手ヲ止メズ攪混シ煮ルコトニ密扭篤若ハ三密扭篤ニノ火ヨリ下ス。○此膠ヲ水桶ノ牆板ニ塗リテ之ヲ合セ。箍圈ヲ嵌メテ緊シク縛住シ。膠ヲメ合縫ヲ周ク封著

セシメ。膠全ク乾ヒテ後。箍ヲ除クベシ。○此膠ヲ用テ。又他ノ水ニ浸スヘキ木具ノ類ヲモ合著スベシ。但シ。總テ其器具ヲ用ルニ方テ。先善ク煖處ニ燥カスベシ。

二十六 木具ニ光輝ヲ與ル塗劑ノ法

木具ニ光輝ヲ發セシムルニハ。通常ノ失結落古假漆ヨリハ。次ノ方法ヲ以テ遙ニ勝レリトス。○上好酒精和蘭秤四分一。孟紫鈔即失結落古。及ヒ杜松脂。各一介半ヲ取り。緩火ニ煮テ。手ヲ停メズ攪混シ。其和劑全ク溶化スルヲ度トシ。火ヨリ下ス。○サテ一捲ノ絨緞邊ヲ取り。此液少許ヲ以テコレニ濡シ。柔カキ利諾布ニ冷タルマ、ノ荏油ヲ潤セル者ニテ。絨邊ヲ

被ヒ包ミ之ヲ用テ光輝ヲ與フベキ所ノ木具ヲ輪圈狀ニ摩過シ。且此劑一頓ニ多ク塗上ス可ラザルヨウ著意シ。摩擦ニ依テ。木面微細ノ漆理ヲノ填實平滑ナラシムルコトヲ要ス。○最後ニ仍少許ノ酒精及ヒ塗劑ヲ取り。上法ニ從テ摩擦シ。最美ノ光輝ヲ發セシムベシ。此物ハ毫モ水ノ侵襲ヲ受ルコトナシ。

二十七 隱見紙ヲ製スル法

水唾液若クハ他ノ液汁ヲ用テ墨汁ト一般ノ色ニ寫シ出サシムル所ノ隱見紙ハ。尋常ノ紙ヲ以テ製出スベシ。○紙ヲ没食子ノ稀キ浸劑ニ蘸シ。善ク陰乾シテ。極メテ細末ノ綠礬ヲ

摩搓シ。而ル後。細末杜松脂ヲ周ク摩搓ス。○是此紙上己ニ墨汁ノ成分ヲ保テタルガ故ニ。若コ、ニ水潤ヲ受ルトキハ。乃流動墨汁ヲ用テ記スル如キ一様ノ色ヲ現ハスモノナリ。

二十八 赤色墨汁ヲ製スル法

ヘルナンビユク木舊秤二羅度。明礬半羅度。亞刺伯護謨一羅度。及ヒ少許ノコーセニリイヲ以テ赤墨汁ヲ製スベシ。○コーセニリイノ浸汁ハ。豫先酒石酸ヲ加エテ其色ヲ固ク刻制ノ亞刺伯護謨ヲ和シ。殆流動スベカラザルホドニ稠厚ト成シ用ユベシ。

又一法

ボトゲル名メノ法ニ。純精ノカルメインテ製セル最良ノ紅ヲ以紅ノ案ニ洋ノ屬十二匹ヲ取り。硝砂精六羅度ヲ盛リタル磁皿中ニ

之ヲ投シテ。紙ヲ覆ヒ燈火上ニ致シ。六密扭篤乃至八密扭篤ノ間。殆煮沸スベキ熱度ニ至ラシメ。絶ヘズ攪混シツ。細粉亞刺伯護謨十八匹ヲ和合ス。○此紅汁ハ。最鮮美貴重色ヲ呈シ。且變更スルコトナシ。但シ。其價稍貴シ。○之ヲ使用セル後。宜ク密栓シ貯フベシ。

二十九 綠色墨汁ヲ製スル法

西班牙綠銅二羅度。亞刺伯護謨半羅度。鬱金四分一羅度ヲ適宜ノ葡萄酒ニ和シ。温處ニ置キ浸出ス。

又一法

葡萄酒醋ヲ玻璃罍ノ半ニ充テ。別ニ一箇ノ水ヲ盛リタル壺
 中ニコレヲ置キ。火上ニ安シテ。徐ニ之ヲ煮沸セシム。○此沸
 熱セル液中ニ。細粉西班牙綠ヲ徐々ニ加工。其物復溶解セズ。
 醋全ク飽和スルニ至ルヲ度トシコレヲ止ム。但シ飽和ノ度
 ハ。細粉器底ニ沈澱スルヲ以テコレヲ知ル。○爾後其醋中ニ
 含有セル西班牙綠ヲノ結晶セシメズ流動形ヲ為サシムル
 コトニ注意シ。其量七分一。若クハ八分一ノ亞刺伯護謨ヲ加
 エテ。其液ヲ澄清スヘシ。○又醋ヲ直ニ火上ニ致サズ。重湯ヲ
 用テ煎煮スルコトヲ要ス。然ラザレハ。其綠多ク瑩澱ヲ失ヘ

バナリ。

三十 黄色墨汁ヲ製スル法

雜腹蘭半羅度ヲ。適宜ノ護謨水ニ加工。火上ニ温メ。浸出メ。瀝
 過シ貯フ。○是ニ硫黄色ヲ與ルニハ。藤黄ヲ加フベシ。

三十一 青色墨汁ヲ製スル法

ブルンスウェーキ綠一羅度ヲ。水一羅度ニ和シ製ス。○又適宜
 ノ洋青ヲ發烟鹽酸ニ溶解シ。是ニ連刺侃篤護謨ヲ和シ。水適
 宜ヲ加エテ。隨意其色ヲ濃淡スベシ。

三十二 記號墨汁ヲ製スル法

普魯社ノ病院ニ於テハ。消酸銀ヲ以テ製スル所ノ記號墨汁

二代へテ。次法ヲ用ル者アリ。○舊秤四分一羅度ノ藍澱ヲ半
 分ノ諾爾度法攝爾硫酸密閉ニ出ニ溶シ水八分ヲ和ノコレヲ
 稀釋シ。次ニ鐵ノ鑑屑ヲ徐々ニ加エテ。其酸全ク是ニ飽和ス
 ルヲ候。液ヲ傾ケ移シ。カラッペル。ス。四分。カム。ペ。セ。木。二。分。ヲ
 加エ。熱テ四分ノ三ト成シ。最後ニ硫酸鐵ヲ加エテ。適宜ノ黒
 色ヲ得ルヲ度トシ。又コ、ニ亞刺伯護謨一分。砂糖半分ヲ和
 シ溶化セシム。

三十三

久ヲ經テ變更セサル墨汁ノ法

トエフレウキス名ノ法ニ。亞刺伯護謨一分。砂糖半分。醋酸鉛
 即鉛糖半分ヲ淨水二分ニ溶和シ。此溶液ニ。硫化水素瓦斯ヲ

通ジ。其鉛ヲ少ク分離セシム。一密扭篤間煮テ後。油煙二錢ヲ
 徐々ニ加エ。攪混ノ。此液ニ同量ノ尋常墨汁ヲ交和スベシ。

三十四

亞鉛上ニ書スル墨汁ノ法

壁ハ。植物ノ外套上ニ貼スル亞鉛ノ牌面ニ載スル小記ヲ書
 スルガ如キハ。此墨汁ヲ用ユ。○製法。中和醋酸銅。結晶西班牙
 綠。及ヒ硝砂同量ヲ。適宜ノ水ニ溶解メ。瀧過シ貯フ。○此液ヲ
 用テ亞鉛上ニ書スルトキハ。瞬間ニ黒字ヲ現ス。○記シテ後
 二十四小時ヲ經レハ。熱湯ニ洗過スルモ。其字ヲ消滅ス可ラ
 サラシム。

三十五

象牙ニ鍍銀スル法

象牙ヲ消酸銀地獄石。即、ラーヒス、インヘルナリスノ溶液ニ
涵シ。少時液中ニ置キテ後、淨水ニテ洗ヒ。日光ニ曝干スレバ。
二三密扭篤ノ内、其牙黒色ト為ル。之ヲ磨ケハ銀光ヲ發ス。

三十六

黃色ニ為リタル象牙ヲ澄白ニスル法

黃色ト為レル象牙ヲ脂油ヲ塗リタル麻布ニテ包ミ搥キ。之
ヲ火上ニ烘熱セシム。但シ、其間慎ンテ蕉熱セザルヨウ意ヲ
用ユベシ。○サテ、同量ノ酒石。及ヒ木灰。或ハ少許ノ剝篤亞斯
ヲ加エタル水ニテ、徐ニ之ヲ煮ルベシ。

三十七

イ、グト痛ヲ治スル法

醫官テ、ガグリア名氏嘗テイ、グト痛ノ發歇不正ナル症ヲ

患ヒ。其痛終ニ兩手ニ轉移セリ。此ニ於テ、彼氏爾來被用セル
卧褥ヲ離レ。偶々ク嗜マザル所ノ煙管ヲ把リシニ、登時右手
ノ中指ニ堪ヘ難キ痛苦ヲ覺エシヲ以テ、其煙ヲ頻ニ其指節
上ニ向テ吹キ送りシガ、其痛頓ニ減ズルヲ覺エ、管ヲ撤スル
ニ隨テ、全ク鎮止シ。其部位ニ當テ夥ク汗ヲ蒸發シ、次テ平愈
セリ。○爾後、カクリア氏他ノイ、グトヲ患ル者數輩ニ勸奨
シテ、此法ヲ用ヒタルガ、其内三人ハ、是ガ為ニ速ニ其痛苦ヲ
免カレタリ。但シ、其煙草ハ、他物ヲ混合セザルモノヲ最良ト
ス。○是ヲ以テ觀レバ、蓋煙草浴ノ法ハ、總テイ、グトノ患者
ノ為ニハ、頗切要ノ者ニシ。此外用法ハ、他ノ數多ノ内用法ト

等ク駭ベ稱シテ可ナリ。

三十八 齧齒痛ヲ鎮止スル法

是^{ビラト}トステ^トノ^{名地}醫官^{エンゲル}名^{人氏}ニ謝スベキ所ノ妙法
 ニメ^己ニ種々ノ患者ニ試用セリ。○エンゲル^{名人}曰。諸種齧齒痛
 若クハ齧齒痛ニ於テ。概^ナ有^テ功ノ方法鮮ナシト雖唯鹽酸瓦斯
 ハ瞬間ニ功ヲ奏スルノ一物タリ。余初ハ獨^レ儂^マ質^ナ痛ニノ三
 此法ヲ用ヒ効ヲ得シガ。其後齧齒痛ニモ此法ヲ用ヒシニ。其
 痛即時ニ愈^エタリ。是^レニ由^テ。總^テ此法ハ。諸種ノ齧齒痛ニ施^メ。鎮
 痛ノ良効ヲ奏スル者ナルコトヲ發明セリ。
 此瓦斯ヲ用ル法次ノ如シ。○小磁皿^ハ或ハ玻璃酒盞ヲ取り。食

鹽一二茶匙ヲ投シ。是^レニ其半量ノ稠厚硫酸ヲ注ギ。其和劑ヨ
 リ直^ニ昇^ル騰^ススル蒸氣ヲノ。勉^テ能ク口中痛齒ノ部ニ觸^レシ
 ム。但シ。此内屏息ノ呼吸スルコトナカラシム。然ラザレバ。其
 瓦斯氣管ヲ刺^シテ咳嗽ヲ促シ。藥カヲ妨ルガ故ナリ。其當
 ニ呼吸スベキニ方^テハ。口ヲ背^ケテ瓦斯ノ刺^シテ避ク。乃^チ其
 痛立^ニ鎮止スベシ。○腐骨ノ症ニ於テ。齧齒是^レカ爲^ニ多ク侵
 蝕セラル。者ニ在^テハ。其効甚速ナラザルコトアレドモ。此
 法ヲ行^フノ後。十五密扭^ヲ出^スシテ鎮止スベシ。但シ此内
 數次瓦斯ヲ患部ニ通觸セシムルコトヲ要ス。○其痛長ク去
 ラズ。或ハ時ニ一週^間モ持^タスル時ニ於^テハ。其十二小時若

クハ二十四小時ヲ隔テ、發スル毎ニ必^ス此法ヲ再復遂ケ行ヘバ。其痛終ニ全鎮止スルニ至ルベシ。○此瓦斯ヲ用ル便法數様アリ。設^テハ。玻璃漏斗玻璃管。烟管等ヲ用テ通導スベク。亦長頸ノ小玻璃壺中ニテ瓦斯ヲ發綻セシメテ。隨意的合ノ處ニ觸シムベシ。○其所置斯ク數様アルガ故ニ。常ニ其良功ヲ収メザルコトナシ。○此慘辛ナル症ヲ患ヘテ。醫家或ハ製藥家ノ手ヲ俟タスコレヲ療セント欲スル所ノ諸人ノ為ニ。今予^レ此處法ヲ掲ゲ示セリ。但シ。硫酸ハ苛烈ニシ且。酷ク焦爛スル性ノ物ナルガ故ニ。之ヲ用ルニ方テ。殊ニ戒慎シテ從事スヘシ。○過酸鹽酸瓦斯^{即蘇魯林瓦斯}モ亦俊効アリ。然レドモ。其能力

特ニ速ナルニモ非ズ。又其製法彼^ガ如ク簡一ナラザル故ニ。予曾テ之ヲ試用スルコトヲ欲セス。○又鹽酸ヲ用ヒシ後ハ。妙ニ齟齬及ヒ口中ノ惡臭ヲ消除ス。

(三十九) 陷凹齟齬痛ヲ鎮止スル法

上好白糖六匁。白胡椒四匁。食鹽三匁ヲ取り。極メテ善ク研細シテ。緩火上ニテ熔シ。能ク混和セシメテ。豌豆大ノ丸ヲ造リ。陷齟中ニ填塞スヘシ。○又丁子油一^{スルル}刃ニ硫酸亞的兒^{即布弗滿液}ニ錢ヲ和シ。之ヲ綿絮ニ蘸ノ陷齟中ニ置ク。○此法最捷効アリ。

(四十) 解熱劑ノ法

ヘルテ、テリセ。及ビ「カレアウ」共ニ氏ノ説ニ凡、苦味分ヲ含メル植物ノ中。ウツテ、ホヅリイルノ葉ハ。最解熱ノ効アリト云。○此新葉ハ。幾那皮ト一様ノ苦味アリテ。其煎汁及ビ浸汁ハ。妙ニ熱ヲ治スルノ性ヲ備フ。

四十一 燥道ヲ用テ黄銅ニ銀ヲ鍍スル法

黄銅ヲ稀鹽酸ニ浸シ。剥篤亞斯三分。蘇魯林銀一分。結麗土一分。食鹽一分ノ和劑ヲ用テ之ヲ摩ス。其銅美光ヲ發スルニ至レバ。酒石及ヒ水ノ泡和溶液ニテ洗過スベシ。

四十二 濕道ヲ用テ銅及ヒ黄銅ニ亞鉛ヲ鍍スル法

亞鉛ヲ甘堀ニテ熔シ。之ヲ熱セル鐵臼ニ投ジ。急ニ攪混シテ

碎粒トナラシメ。此粒子ヲ磁器或ハ玻璃盃ニ盛レル。砒砂ノ飽和溶液中ニ投シ。煮テ滾點ニ至ラシメ。サテ。銅或ハ黄銅線ヲ稀鹽酸ニテ淨洗シ。之ヲ其滾液中ニ投スレハ。其線乃亞鉛ヲ鍍シテ。鏡面一般ノ光ヲ發ス。○鐵及ヒ銅ニ亞鉛ヲ鍍スルニハ。最初ニコレヲ硫酸銅即丹ノ溶液ニ蘸シテ後。上ニ載タル滾液中ニ投スベシ。

四十三 銅線ノ毒ヲ防ク法

マルセリントハル及ビ「オルヒラ」共ニ氏多クノ試験ヲ以テ。砂糖ハ西班牙綠銅ノ毒ヲ防。最要藥タルヲ發明ス。○嘗テ此毒ニ中リ嘔吐。腸痛等險惡ノ症ニ傾ケル者數人ニ。適宜ノ

砂糖或ハ糖水ヲ用ヒテ良効ヲ得タリ。

四十四 寒脱疽ヲ治スル法

有名ノ醫官ハ一子マシハ氏ノ確証ニ據ルニ次法ヲ用テ的切ニ寒脱疽ノ腐蝕ヲ防キ且全治スルノ効アルヲ主張セリ。○十二羅度ノ櫟皮粗末ヲ八斤共ニノ淨水ニ投シ徐々ニ煎熬シテ濃液一升ニ至ルヲ度トシ其色宛褐色昔ニ麥酒ニ似タル液ヲ冷定シテ利諾布リノヲ其中ニ蘸シ布ヲ四層ニ折重子黒色ニ腐壞セル患部ノ四陪大ヲ為サシメ之ヲ以テ創處ヲ蓋セ毎半小時ニ他ノ布片ト交換シテ寒卷ス○其度宜キヲ得ハ通常二三小時間ニ腐蝕ノ勢漸ク遏止シ斑爛ノ臭氣ヲ驅除ス

此法ヲ以テ寒疽ノ腐肉漸ク剝脱ノ良膿ヲ醸シ漸次ニ快路ニ赴クト雖三小時或四小時乃至八小時或ハ十二小時ヲ間テ此法ヲ持久シ全癒ニ至ラシムベシ

四十一 無烟ノ燈心ヲ製スル法

消石ヲ白色澄清ノ醋ニ溶和シ燈心ヲ其液中ニ漬スコトニ十四小時一晝夜間ニノ乾カシ用ニ供ス

四十六 革ニ水ヲ浸洩セサラシムル法

細削セル護謨會刺斯知加ニ羅度ヲ過鑄セサル壺ニ盛リテ緩火上ニ熔シ荏油煮者一食匙ヲ和シ善ク攪混シ五密扭篤ノ間ニ復同量ノ荏油ヲ加エ平等ニ調和ス但シ荏油ノ量六

羅度ニ過グヘガラス。○サテ之ヲ火ヨリ下シ。是ニ一羅度ノ鯨油及ヒ同量ノ帝列並底那油ヲ加エ。ヨク混和セシム。○此和劑ハ靴鞋ノ革ヲシテ極メテ水ニ堪ヘ。且甚軟靱ナラシム。

四十七 リモナアテ散ヲ製スル法

枸橼酸ヲ用ヒザルリモナアテノ法次ノ如シ。○適宜ノ餅糖ヲ枸橼ノ黄皮上ニテ削末シ。其糖舊秤十二羅度ニ酒石英一羅度ヲ加エ。石臼ニテ細研シ。玻璃罎ニ密栓シ貯フ。○此末ヲ水ニ溶シ用ユ亦旅中携用ニ便ナリ。

四十八 利諾布ニ水ヲ浸淫セザラシムル法

天幕等ニ用ル所ノ水ニ堪ユル利諾布ヲ製スルニハ。生荏油

煮荏油各ニ升ニ。帝烈並底那一勺蜂蜜一食匙ヲ和シ。陶壺ニ盛リ緩火ニ煮。手ヲ止メズ攪混シ悉ク溶化スルヲ度トシ。是ヲ用テ火邊ニ乾セル布上ニ塗ルベシ。

四十九 鉛ニ錫ヲ鍍スル法

先其物ニ脂油ヲ塗リテ後。是ニ溶化錫ヲ塗上ス。但シ其錫ハ熱度ニ過ザランメ。且其上ニ油ヲ蓋ハシムベシ。

五十 引火奴自然ニ火ヲ製スル者ヲ製スル法

イ、プレセル人氏尾能府獨逸ノ首邑ニ於テ創製セル引火奴ハ普通所在品ヨリハ其價廉ニシ。發焰ノ時響鳴ナク。又爆勢微ナナリ。其法亞刺伯護謨二十分燐五分過酸化滿俺十六分消石

十六分ヲ以テ成ル。

五十一 陶器ヲ接著スル膠ノ法

陶器或ハ磁器ヲ固著セシムル所ノ膠ハ乾酪即乳汁ノ稠分ト細末加爾基ヨリ成ル。○此酪餘若クハ酸乳ヨリ分析セル稠分ヲ善ク洗淨シテ乾固シ。架菲磨ニテ磨礫スベク為サシム。是ニ由テ其秤量三分ノ二ヲ減ス。○細ニ磨粉ノ後尚一四乾焙シ。此末九分ニ加爾基四分ヲ合シ。研和シテ密塞玻璃壺ニ貯フ。○此和劑ハ甚長ク保固スル能アリ。又少許ノ羯布羅ヲ加フレハ殊ニ良ナリ。是ニ水ヲ和シ。琵琶ト成シ用ニ供ス。此法ニ據レル者ハ温熱ノ蒸氣ニ觸ル。モ曾テ溶解スルコ

トナシ。

加爾基ニ鯨油ヲ調加スル者モ亦甚堅固ニシ。水ニ堪ユベキ膠泥ヲ成ス。○鯨油加爾基ノ法ハ先加爾基ヲ水ニ投スレバ温熱ヲ起シテ澱粉ヲ沈降ス。漚ノ其粉ヲ分テ取り。是ニ鯨油ヲ和シ。染料ノ稠ト為ス。西班牙ニテハ之ヲ以テ船艦ヲ画クノ料ト為ス。○又鯨油ニ代ヘテ荏油ヲ用ル者アリ。此物ハ破裂ノ空隙ヲ塗塞シ。或ハ蒸餾格兒弗ノ屬ヲ密封スル等ニ用ヒテ妙ナリ。

水槽ヲ塗ルニ必用ナル石膠ハ鐵ノ鑷屑及ヒ四十倍ノ水ヲ加エタル稀硫酸ヨリ成ル。之ヲ其全面ニ塗ルナリ。

普通泥匠ノ用ル泥灰ノ成分ナル加爾基及ヒ砂ノ中へ鐵ノ
 鱷屑ヲ加フレバ鐵屑酸化シテ鏽ヲ成シ頗堅實ト為リ且久
 キニ堪フ○其法適宜ノ水ニ舊秤十斤ノ加爾基ヲ投シ是ニ
 鐵ノ鱷屑五十斤珪砂十斤ヲ加フ○又或ハ其量ノ鐵屑ヲ
 獲ベカラザルニ遇ハバ是ニ代ヘテ鐵落ヲ用ユベシ鐵落ハ
 熾熱メ水ニ淬スレバ容易ニ粉細スベシ

又一法

杜松子一斗ヲ強烈燒酒ニ溶シ別ニ魚膠一斗ヲ水ニ漬シ柔
 軟ト為リタル者ヲ其劑ニ和シ其凝液ニ護謨安沒尼亞幾一
 斗ヲ加工其和劑ヲ陶壺ニ納レ緩火上ニ致シ二物互ニ抱和

スルニ至リ其膠ヲ玻璃壺ニ密栓シ貯フ○之ヲ用ルニ方テ
 其壺ヲ温湯上ニ置キ破缺セル器物モ齊シク熱メ其破邊ニ
 之ヲ塗り接合シテ摩托シ半時間縛住スベシ○此法ヲ用ル
 者ハ接合ノ力極メテ緊切ニシテ破裂セザル物ト一般差異ナ
 シ

又一法

蠟及ヒ瀝青ヲ齊シク溶化シ大理石ノ細粉適宜ヲ加工用ル
 ニ臨テ温メ塗ルベシ

五十二

木石玻璃ヲ接著スル膠ノ法

甘乳酪ノ外皮ヲ纖ク剝シ滾湯中ニ攪和シテ柔粘ノ物ト為

ス此物性水ニ和合セズ。○滾湯中ニテ數回此法ヲ施セル物
ヲ顔色礫子ニ分テ取り。是ニ生石灰ヲ加エ磨リテ粘膠ト為
ス。○此膠ハ温用スベク。又冷用スベシ。但シ十二乃至十四日
ノ間。放置シ乾カスベシ。

五十三 荏油假漆ノ法

荏油百斤ヲ銅鍋或ハ銅盃ニテ熱セシメ。火ヨリ下シ。二乃至
四錢ノ強烈消酸數滴宛時々ニ和合スレバ。響鳴腐沸ノ二物
分析ス。○之ヲ冷定シ。大氣ニ放置スルコト二三日ニ。粘液
様ノ滓塗分レ降り。澄明ノ假漆ト為ル。○此假漆ハ酒黄色ニ
ノ。乾クコト甚速ナルガ故ニ。別ニ他ノ乾料ヲ加ルコトヲ要

セズ。

五十四 鍍金ノ邊緣額縁ヲ淨刷スル法

舊秤三羅度ノ雞子白ヲ水一羅度ニ和シ。是ニ柔カキ毛ハシ刷子
ヲ蘸シ。細心シテ邊緣ヲ磨刷スベシ。

五十五 健胃苦味酒ノ法

四分一噸一噸量百五十五斤ノ麦酒ヲ取り。健質亞那一斤長胡
椒八羅度ヲ加エ浸出ス。○此麦酒ハ佳香ノ苦味アリテ。頗健
胃強壯ノ功アリ。

五十六 健胃酒ノ法

醇良佛蘭西酒一盃ニ。拾失亞木新秤三羅度。大黃一羅度ヲ加

へ。乃至四日ノ間大陽ニ曝浸ス。○此劑一盞ヲ晝前及ヒ晡前ニ飲下スヘシ。

五十七 胃瘕ヲ鎮止スル法

亞刺吉一食匙ニクムメル油三四滴ヲ和シ。一次ニ頓服スレバ。胃痛忽地ニ鎮止シ。又二回ノ飲服ヲ要スルコト稀ナリ。或ハ黑菜菔及ビ山萸菜根ヲ細削シ。醇良燒酒ニ投シ。温處ニ浸出シ。胃痛ノ發起スル初頭ニ於テ一匙ヲ飲下ス。

五十八 馬德辣酒ヲ製スル便法

上好白葡萄酒六十一分。砂糖八分。蜂蜜八分。燒酒三十六度者八分。ホップ唐松草ノ類半分ヲ和合シ。浸出スルコト二三日ニシテ。棉布ニ

テ漉シ貯フ。○其苦味ノ厚薄ハホップノ分量多少ニ依ルナリ。

五十九 大理石ヲ彩飾スル新法

把理斯府ニ於テ。近時大理石ヲ彩飾スル新法ヲ創制ス。○脂膏若クハ蠟ヲ以テ。大理石ノ面ニ塗リ。種々ノ画像ヲ為リ。稀硫酸ヲ用テ其面ニ深く侵蝕セシムレバ。脂蠟ヲ被レル部位ハ。毫モ酸ノ竅蝕ヲ受ケズ。其素質ヲ存シ。自宛然画像ヲ現出ス。○サテ。其侵蝕セル處ニ極メテ堅硬ナル脂蠟ヲ填メテ。全面ヲ平滑ナラシム。○此法ヲ用テ。黒質大理石ニ緋紅色ノ蠟ヲ填實シ。エトリス。或ハ阨入多風ニ摸造スレバ。頗美觀ヲ呈ス。又卓子ノ鏡板。烟突ノ外套。牆壁等ニ用ユレバ。殊ニ妙ナ

リ。

六十 速ニ熔解スル合金ノ法

蒼鉛五分。鉛三分。錫二分ヲ以テ成ル。但シ其諸金極メテ純粹ナルヲ要ス。○此合金ハ滾水已下ノ度ニ於テ已ニ流動スル者ニノローセン。メタール明セル合金ノ義ノ稱アリ。

六十一 稚樹ニ生スル苔蘚ヲ除ク法

稚樹其他挿木等ニ生シテ其蕃長ヲ妨グル所ノ苔蘚ヲ驅除スルニハ家猪圈ノ中ニ瀦留スル汚水ヲ其枝極ニ灌グラ良法トス。

六十二 依蘭苔飲ノ法

依蘭苔一羅度ヲ先水ニ蒸浸シテ其水ヲ瀉シ去リ更ニ水一盃及ヒ乳汁或ハ肉煮汁ニ合セ煮テ三酒盞量ト為シ砂糖ヲ加ヘ適宜ノ甘味ニ調シ飲用ス。

六十三 無炎ノ夜燈ヲ造ル法

百分一撮ノ粗ナル白金線ヲ以テ吉貝燈心ヲ螺卷シテ線頭ヲ挺出セシメ酒精ヲ盛リタル玻璃壺上ニ挿置ス。○此燈心ニ火ヲ點スレバ忽チ焚燃メ白金線亦紅熾ス。○此ニ於テ火炎ヲ吹滅スルニ白金線仍紅熾シ又酒精ノ為ニ焚燃ヲ保續ス。此燈心ノ纖細ナル光明ニ就テ夜間瞭然袖時儀ノ時刻ヲ辨スベシ。○他ノ蒸體ヲコレニ近クルニ火ヲ傳ルコトナク唯

硫梯ヲ白金線ニ接スレバ乍^ナ焚燒ス。○又概^{コト}火屑^{ヒノコ}逆散ノ患ナシト雖^レ豫^メ玻璃^ノ罩^ヲ蓋^フテ其不虞^ヲ避^クベシ。○通常八小時間ニ舊秤一羅度ノ酒精若クハ亞爾箇兒ヲ費ヤス。是ニ佳香ノ物ヲ含有セシムレバ。満室薰芳ヲ散ノ殊ニ心意ヲ娛マシム。○白金線ハ時々淨刷スルコトヲ要ス。

六十四 衄血ヲ止ムル法

子^リキール^ル氏^ノ把理斯^ノ學館ニ於テ衄血ヲ鎮止スル一新法ヲ公セリ。○其法甚簡ニノ唯一擘或ハ兩擘ヲ高ク舉ゲテ保持スルニ在リ。然レドモ是諸種ノ衄血ニ各對症諸劑ヲ與ル如ク通^シ効アルヲ期スベカラズ。特ニ偶然自己ヨリ發スル

所ノ衄血ニ効アリ。

六十五 油ヲ貯藏スル法

甘油或ハ阿列^イ機油ヲ玻璃壺ニ納レ少許ノ燒酒ヲ其上ニ注ギ。枹^ヒ栓ニテ密塞シ。獸胞ヲ用固封シ藏スレバ腐敗ノ患ナク能ク又ニ堪フ。○是其油分ハ燒酒ノ下ニ在リテ直ニ空氣ニ觸レザルカ故ニ此法ニ由テ多分其腐敗ノ因ヲ除クベキナリ。

六十六 油ヲ淨清スル法

千八百三十三年ホルスト子^ル氏^ノ貝イエレ^ン獨逸^ノ地名ニ於テ油ヲ淨清スル法ヲ公ニセリ。○標皮末四百斤ニ食鹽四分

萬寶新書 三

ヲ合シ。是ニ滾湯四百升ヲ注加シテ。善ク攪和シ。八日間靜定セシム。○三日ヲ經ルノ後。澄清ノ油ヲ分テ取ルベシ。

六十七 果類ヲ貯藏スル法

セル^ルテ^人ガ^セイツ^地ノ^名通知ニ據レバ。橙。桃。梅ノ如キ果物ヲ貯藏スルニ。次法ヲ用レバ能ク久ニ堪フ。○先適宜ノ淨砂ヲ取り。水ヲ灌ギテ屢洗過シ。其水澄清トナルヲ度トシテ之ヲ瀉シ去リ。其砂ヲ善ク乾カシテ後。コグナス燒酒^{獨逸}ヨリ出ル者^名ヲ以テ之ヲ潤シ。土壺或ハ木桶ニ納レ。甚飽熟ニ過キズ。猶差^ヤ未成ナル果物ヲ其砂中ニ貯フ。○即砂ヲ段々ニ散布シ。果物ヲノ顆々相觸レサラシム。但シ。乾燥ニノ甚温ナ

ラサル處ニ貯フベシ。

六十八 オホデルドフヲ製スル法

此疼痛ニ塗劑トシ稱用スル所ノ英吉利拔爾撒謨ノ製法。左ノ如シ。○乳汁ニ溶シテ善ク乾カセル白石鹼一分ヲ亞爾箇兒四分ニ加ヘ。玻璃壺ニ納レ。密栓シ。和合セシメテ瀝過シ。是ニ羯布羅一錢ニ硝砂精五陪量ヲ加ヘ溶セル者ヲ和シ。而ル後。迷迭香油半錢。搥堙兒油十二滴。茉莉刺那油一滴ヲ加ヘ。振盪ノ玻璃壺ニ密封シ貯フ。○石鹼ハ能ク辛蝕ノ性ヲ脱シ。淨精ナルヲ最良トス。

六十九 牛膽ヲ製煉スル法

牛膽ハ凡ハ絨ハ尾ノ汚斑ヲ脱除スルニ最頂ノ要藥トス之ヲ製煉スル法先牛膽一盃ニ細粉明礬舊秤二匁ヲ加ヘ煮ルコト一小時許ニシテ又食鹽四匁ヲ加ヘ渣脚ヲ沈定セシメテ後傾ケ瀉シ玻璃罍ニ密栓シ貯フ○其液ニ少許ノ橙汁ヲ加ルモ亦佳シ是ニ由テ其佳香ヲ添ルノニ方ラス又善ク本液ノ主能ヲ資スク

七十 馬ノ鞍傷ヲ治スル法

鞍下ノ腫起セル部位ニ一片ノカラス我邦ニテ庭際又ハ土堤ヲ敷鋤クニ用ル所ノ土根ヲノミキ取リタル茅根ヲ云ヲ置キ固ク其處ヲ巻ヒ腰帶ニテ壓摩セサラシムベク為スベシ○翌朝ニ至リテ其腫部些害

ヲ遺サズ解散スベシ○此法ハ殊ニ其壓傷ノ處潰爛セザル前ニ施スベク又馬ヲシテ温保セシメズ先清凉ナラシムルヲ要ス

七十一 馬足ノ痺麻質痛ヲ治スル法

燒酒和蘭秤二盃帝列並的那新秤六羅度ノ和劑ヲ以テ患部ノ筋絡上ヲ洗ヘバ妙ニ其疼ヲ治ス但シ善ク之ヲ擦入スベシ

七十二 描画ニ用ル透明紙ヲ製スル法

蘭ロンド墩ドレ府首英吉利ノ工藝會社ノ長タルカテリイ名氏カ東印度墨案ルヲ云ニ文ヲ用テ寫記スベキ透明紙ノ法左ノ如シ○帝列

並的那二孟ニ。細粉鉛糖和蘭秤二羅度ヲ和シ。攪混シテ放頓スルコト二十四小時ノ後。之ヲ善ク振盪シ。加那達拔爾撒謨半斤ヲ加ヘ。其玻璃壺ヲ適温ノ砂槽上ニ安ジ。液ヲ攪動シテ。諸物好混和スルヲ度トシ。之ヲ以テ紙ヲ塗リ乾カス。○四五日ヲ經ルノ後。隨時其用ニ供スベシ。

七十三

水記紙ヲ製スル法

此紙上ニ。水或ハ津唾。及ヒ他ノ液汁ヲ用テ書記スルニ。其痕黑色ヲ發スルコト。墨汁ヲ用ルガ如シ。○紙ヲ没食子ノ稀キ浸汁ニ蘸シ。陰乾シテ。細粉綠礬ヲ抹布シテ後。杜松脂ノ細粉ヲ擦上ス。○是ニ由テ。其紙上ニ墨ノ本性分ヲ具有ス。今此ニ。

液水ヲ以テ紙面ニ曳ケバ。忽黒痕ヲ顯ハスコト。流動墨汁ヲ用テ記スル如ク一般ナリ。

七十四

圖画ヲ彩色スル爲ニ紙上ニ塗ル膠水ノ法

舊秤二羅度ノ細膠。及ビ同量ノ白石鹼ヲ取り。二物ヲ一彬篤ノ水ニ火上ニ溶ン。其液ニ明礬四羅度ヲ加ヘ。手ヲ停メス攪混シテ。好ク溶解セシム。○此和劑冷定シテ後。海綿若クハ筆ヲ以テ應ニ彩色ヲ施スベキ圖画上ニ塗ルベシ。

七十五

バルケメント紙透明ニメ景摸ヲ製スル法

尋常ノ紙ヲ一二分時間消強水ニ蘸シテ後。水ヲ以テ洗過スレバ。即此紙ヲ獲。○此紙ハ。殆バルケメント羊胎ノ如クニメ。

水ノ浸淫ヲ受ケズ。但シ。焚燃シ易キコト硫黄ノ如シ。

七十六 鹽肉法輸倭地ノ製スル法

生レテ七歳ナル肥ヘタル牛ノ臀一箇ヲ取り。骨ヲ去リ。肉中ニ在ル食用ニナラザル脂ヲ切り除キ。殖脂ヲ存シ。務メテ大塊ニ截断シ。食鹽四握ニ純精消石舊秤一羅度ヲ和シタル者ヲ用テ肉面ニ周ク抹布シ。轉反擦入シテ。肉復濕ラザルホドニ至ル。○サテ其肉潮濕ヲ始ムルニ至ラバ。速ニ之ヲ桶中ニ藏サメ。務メテ能ク填實セシム。但シ。桶底ニ豫丁子三十粒。及ヒ少許ノ迷迭香ヲ入レ置クベシ。○又。肉ヲシテ箇々空隙ヲ生セシメズ。固ク桶底ニ填置シテ。容易ニ蓋封スベカラザル

ゴトク緊密ナランコトヲ要ス。○爾クメ後。此桶ヲ冷處ニ置キ。一月ノ間。毎日之ヲ回轉スベシ。一月ヲ經ル後ハ。隨時食用ニ供メ可ナリ。

七十七 植物ヲ久ク保有スル法

エアウボム名入氏有名ノ本草家并ルベ名入氏ニ生殖セル植物ヲ長途ノ旅行中善ク保有スベキ法ヲ告ゲテ曰ク。エアウボム佛蘭西難湯佛蘭西ヨリ毛理西亞弗利加ニ旅行セシトキ。草木ノ断株。及ビ根ヲ。黄土及ビ牛糞ニ水ヲ和シタル泥ヲ用テ苞シ。密蓋セル箱中ニ納メ携ヘシニ。毛理西ニ到レル頃。其數種ノ株根已ニ葉ヲ生ジ。或ハ花ヲ著ル者アリト。

○蓋其知報ニ據ルニ。旅航中。其箱ヲロイム船ノ荷ヲ納ノ内ニ置キタルヲ以テ觀レバ。其時日ノ間。天光ヲ受ルヲ要セザルモノト見ヘタリ。

七十八 植物ノ葉蟲ヲ驅除スル法

植物ニ生スル葉蟲殊ニ盆種ニ在テハ。胡桃子ノ外皮ノ浸汁。或ハ煮汁ヲ用テ驅除スベシ。

七十九 動物植物ヲ好ク保有スル法

スエニイ名氏ノ説ニ據ルニ。動物植體ヲ貯ヘ腐敗セザラシムル法。左ノ如シ。○貯有セント要スル物件ヲ。先ヅ一回煮過セル水中ニ入レ。是ニ鐵ノ鑷屑少許ヲ投スベシ。是其水中猶

含有スル所ノ酸素ヲ噲収セシムルガタメナリ。○又。外氣ヲ遏閉スルガ為ニ。水上ニ好油一段ヲ注キ覆フベシ。但シ。其壺ハ。過錆セザル者ヲ良トス。○此法ヲ以テ貯有スル肉類。七週ノ久キヲ經ルモ。曾テ其性カヲ耗失スルコトナク。殆鮮割肉ノ如ク一般ナリ。○蔬菜ノ此法ヲ用ル者モ亦同シ。○斯ク貯藏セル物件ヲ取ントスルニ方テ。桶ヲ斜ニ傾ケテ。先油ヲ瀉出セシメ。而ル後摘シ出サバ。其物毫モ油分ヲ蒙ルコトナシ。

八十 植物ノ汚斑ヲ洗ヒ除ク藥水法

植物ノ汚斑ヲ除ク所ノ亞硫酸ヲ製スルニ頗便捷ノ法アリ。先。盆上ニ適宜ノ水ヲ盛り。水心ニ一箇ノ石ヲ置キ。石頭ヲ水

面上ニ抽出セシム。石上ニ少許ノ硫黄ヲ置キ火ヲ點シテ焚
 燃セシム。○硫黄善ク燃ルニ至ラバ。麦酒盞ヲ以テ之ヲ覆ヒ
 其昇騰スル白烟ヲ水面ニ降シ。水ヲシテ酸性トナラシム。此
 法ヲ行フコト再復數回ニメ。稍強烈ノ酸ヲ獲。即所謂亞硫酸
 是ナリ。

八十一 鏤板ノ圖画ヲ采色スル法

鏤板及ヒ石板ノ圖画ニ油質顏料ヲ施セル筆画ノ觀ヲ為サ
 シムルニハ。先其畧幅ニ帝列並底那油七分精好杜松脂一分
 精好勿搦祭亞帝列並底那三分。細粉白玻璃一分ヨリ成レル
 假漆ヲ塗リテ透亮ト為シ。之ヲ光明ニ照ラシテ。其裏面ヨリ

尋常ノ油質顏料ヲ用テ采色ス。○其物乾ケル後。背面ニ黑紙
 ヲ貼シ額面ニ装ス。

八十二 白金綿ヲ製スル法

ドベレイ子ルセ、ヒールトイグ近時往々船齋スル類ニ用ユル
 白金綿ハ。通常纖細ノ白金線ヲ亂錯不等ニ鬆ク卷束シ。之ヲ
 蘇魯林白金ノ稠厚溶液消鹽酸ニ和セル白金ノ溶液中ニ投
 ジ直ニ取りテ酒精燄上ニ致シ。熾紅セシム。○卷線熾紅スル
 ニ至レバ。蘇魯林白金分離シ。其白金ハ海綿狀ヲ成シテ線上
 ニ留著ス。○此法ヲ再復數回メ。白金綿ヲ厚ク纏著セシムベ
 シ。○近時白金線ニ代ヘテ。纖細ノ石綿絲アスベストヲ上法ニ隨テ卷束

シ。數次蘇魯林白金溶液中ニ沈メ。熾紅シ製スルコトヲ載ス。此法ヲ以テ製スル白金綿ハ。其價廉ナルノミナラス。白金ノ分子殊ニ細微ナルヲ以テ。從前用ヒ來レル白金綿ヨリハ。燦勢ノ勢一層盛ナルノ利アリ。○所謂「ドベレイ子ルス、ヒュールトイグ」ハ。隨意各様ニ裝飾セル玻璃或ハ磁甯ニ黃銅ノ蓋ヲ設ケ。蓋ニ一箇ノ障辨ヲ具ヘ。之ヲ以テ蓋口ヲ開キ。或ハ扨閉メ。甯中ヨリ綻發スル勢燃瓦斯ヲ進退スルノ一機盤ニメ。普通人ノ知ル所ナリ。

八十三 禽類ノ説

雞類ハ冬季甚多ク蟲ヲ生スルノ患アリ。細粉胡椒ヲ用テ能ク之ヲ驅除スベシ。○孔雀類。若接骨木花ヲ食スレバ轍^チ死ス。雞類接骨木甚ヲ食スレバ大害ヲ生ス。○稚^チキ白露國雞ニ截切セル「ブランド、子^シテ^ル」^麻或ハ葱ヲ餌食ニ和シ與フレバ。頗滋養ノ功アリテ。大ニ其生長ヲ資グ。

八十四 髮ヲ生ズルホマーテ^{我邦ノ梳ノ法}

羊脂舊秤六羅度。榛油ニ羅度。牛腦一羅度。細粉標皮四分一羅度。白露技爾撒謨四分一羅度。刺賢埵兒油四分一羅度ヲ善ク研和シ貯フ。○此ホマーテハ。特ニ隨時一箇ノ疾病ニ因リテ。毛髮脱落セル者ニ稱用ス。○但シ。其症老年ノ者ニ在テハ。復其効ヲ見ズ。

八十五 磁器ヲ接著スル膠ノ法
 蠟及ヒ脂ヲ合セ熔シ大理石ノ細粉適宜ヲ加ヘ物件ヲ熱メ
 接著ス。

八十六 玻璃壺及陶瓶等ヲ淨洗スル法
 多量ノ水ヲ入レタル玻璃壺或ハ陶瓶設バ茶確等ノ如キ物
 ノ裡面ニ通常灰褐色ノ塗皮附著シテ容易ニ剝落シ難ク又
 縱令確内ノ全面ヲ淨除シ得ルトモ仍ハ其注嘴中ニ殘留ス
 ルノ患ヲ免カレズ。○此不潔ヲ除クニハ唯稀鹽酸ヲ用テ洗
 過スベシ。是ニ由テ其加爾基紫ニ塗皮ヲ云徐々ニ溶解メ全ク新器
 ノ如ク淨潔トナルナリ。

八十七 鋼筆ノ鏽ヲ防ク法

從來鋼筆ノ鏽ヲ防グニ霰丸狩獵ニ用ユル小鉛丸中ニ貯フル等ノ方
 法アレドモ畢竟其益甚多トセズ。○通常ノ鷺毛筆ハ其本有
 所含ノ脂油ノ爲ニ墨汁自能ク流滴シ鋼筆ハ其新ナル間其
 假漆ハ所謂鷺毛筆ノ脂油ト一般ニ又能ク墨汁ヲ流滴ス。○
 然ニ假漆剝脱ノ其鋼鏽衣ヲ生スルニ至テハ其筆頓ニ不用
 ノ廢物ト爲ルコト筆頭磨削メ漸次ニ禿退スルヨリモ頗速
 ナリ。○故ニ鋼筆ニ屢至微ノ脂油ヲ被ラシムレバ其筆久ク
 用ルニ堪ユベシ。○是ガ爲ニ帝列並底那及阿列機油各同量
 ヲ以テ蘸シタル一片ノ脂巾ヲ造リ方ニ用ヒタル鋼筆ヲ乾

ケル中片ニテ淨刷セル後ニ。此脂巾ニテ一回拭ヒ置ベシ。○
帝列並底那ハ速ニ揮散シ。油ハ巾片ニ留マリ。之ニ由テ。墨汁
ノ流滴ヲ碍ゲザラシム。○或ハ又。脂油様ノ物ノ一塊餅ヲ造
リ。用ヒタル鋼筆ノ其墨汁ヲ拭ヒタル後ニ。必一此餅中ニ
衝シ入レ。復用ルニ臨ンテ淨刷スベシ。

八十八

鐵及ヒ鋼ノ鏽ヲ防ク法

其物件ヲ烘メ。手ニ握リテ殆傷爛スルホドノ熱度ニ至リテ。
是ニ白蠟ヲ塗り。呢絨片或ハ革ヲ以テ善ク摩擦シ。光澤ヲ發
セシム。○細綴ナル鋼ノ物件ニ此法ヲ施セバ。濕潤ナル大氣
中ニ在テモ。鏽ヲ生ズルコトナシ。

八十九

玫瑰蜜ヲ製スル法

玫瑰蜜ハ。咽喉痛及ヒ齒齦ノ焮衝ヲ治スル家藥トシ貯フベ
キ者トス。製法左ノ如シ。○舊秤一斤。鮮美ナル玫瑰花ヲ細ニ
挫シ。石臼ニテ研搗シ。淨精蜂蜜半斤ヲ和シ。煮沸セシムルコ
ト三四回ニノ憑過シ。玻璃壺ニ入レ。獸胞ニテ密封シ貯フ。○
齒齦痛ニ用ルニ臨ンテ。細粉肉豆蔻少許ヲ和スベシ。○其他
ハ。此物適宜ヲ取り。水ニ和シ。含嗽劑ト為シ用ヒ。或ハ一茶匙
ヲ飲服ス。

九十

鞋ヲ塗り光澤ヲ生スル塗料ノ法

象牙炭舊秤十二羅度ヲ陶壺ニ入レ。是ニ甘油扁豆油ニ食匙ヲ

和シ。玻璃笈或ハ棍子ヲ以テ攪混シ。次ニ鹽酸二羅度ヲ調和シ。又細搗綠礬三羅度白糖四羅度。酢適宜ヲ加フ。○此諸物能ク混和セル後。硫酸三羅度ヲ滴和ス。但シ其塗料甚稠厚ニ過レバ。酢或ハ水ヲ和シテ可ナリ。

九十一

鞋ヲ塗リテ水ノ浸濡ヲ受ザル塗劑ノ法

フリモウト英吉利ノ地名ノブリアント及ビヤームス共ニ氏ガ官許ヲ受ケタル英吉利鞋油ノ法左ノ如シ。

凝稠ノ者

- 象牙炭 六十斤
- 糖蜜 四十五斤

- 頂好醋 十二斤
- 硫酸 十二斤

右調勻シ。三十密扭篤間。手ヲ停メズ攪混シ。靜定スルコト七日ノ後。護謨會刺斯知加油九斤ヲ加合ス。

又法

流動ノ者

- 象牙炭 六十斤
- 糖蜜 四十五斤
- 頂好醋 二百斤

但シ。此中ニ亞刺伯護謨一斤ヲ溶カセル者。

右善ク調勻シテ後。硫酸二十四斤。護謨會刺斯知加油九斤ヲ加合ス。

爾後一月ノ間。毎日好ク攪混スルコト半小時間ナルベシ。

此劑ヲ靜定スルコト十四日ヲ經ルノ後。又亞刺伯護謨三斤ヲ加合ス。

護謨會刺斯知加油ノ製法左ノ如シ。

護謨會刺斯知加_{細切セ}油_者 十八斤_秤

菜油 九斤

右湯槽ノ内ニテ溶解セシムベシ。

九十二 美艷膏ノ法

黙加帝列並底那三十斤。扁挑油舊秤四斤。鯨腦四錢。亞鉛華二錢。白蠟四斤。薔薇水六斤ヲ調和シ。軟粥ノ稠ト為ス。○此膏ハ皮膚ヲ調エ。色ヲ白クス。○亞鉛華ハ元皮膚ニ害アル者ナレドモ。此諸件ニ和スレバ。些害ヲ遺スコトナシ。

九十三 美艷香水ノ法_{佛蘭西ノ法ニ據ル}

水二盃ノ中ニ。先酒精ニ溶シタルトルチ。拔爾撒謨及ヒ白露。拔爾撒謨少許ヲ和セル上好薔薇水一盃ヲ調勻ス。

九十四 銀ヲ磨光スル粉劑ノ法

絶細ニ搗研セル酒石末舊秤四斤。西班牙結麗土末四斤。明礬末一斤ヲ調和シ。次ニ嚴醋ヲ以テ其劑ヲ濕シテ乾カシ。復濕

シ。復^ラ乾^カスコト二回ノ後。又泥ト為シ。極メテ絶細ニ研磨シ。玻璃^ニ貯^ル。○銀器ヲ磨光セント欲セバ。此物少許ヲ取り。水ヲ和シ。軟^ラカキ磨^ミ巾^ヲヲ用テ磨擦シ。復水ヲ點シ。復磨シ。漸ク乾巾ヲ用ヒ。或ハ軟革ヲ用テ磨キ。全ク乾クニ至ラシムベシ。○英吉利ノ一銀匠。今ヨリ已前遠カラサル頃。左ノ磨銀粉ヲ稱用セリ。○甚稀薄ナル枸橼醋^{即水ヲ和セル者}。適宜ヲ取り。少許ノ曹達。及ヒ結麗土ヲ調勻シ。此和劑ヲ日光ニ曝乾ス。○是ニ由テ。其液全ク蒸散シ盡シ。留マル所ノ粉ハ。即次日磨光ノ具ト為シ殊ニ切要ノ者トス。

又一法

ハシレ氏ノ説ニ據

醫官ハシレ^名ノ法ハ。淨洗セル烟管土四分。純精酒石一分ヲ取り。絶細ニ篩ヒ研和ス。○硫氣ヲ含メル卵類及ヒ其他ノ硫氣ヲ含メル食料ニ由テ黒鏽セル銀器。即硫化銀ヲ衣セル者ハ。先酢ヲ用テ淨磨シテ後。此粉ヲ用ユベシ。

九十五

車駕ニ裝著セル革ニ光澤ヲ與ル塗料ノ法
阿膠舊秤二羅度ヲ水ニ和シ。火上ニ安シ。平等ニ融解セシメ。次ニ尋常錫布舊秤三羅度ヲ火上ニテ水ニ溶^カン。之ヲ火上ニ融解セル膠中ニ注加ス。○此二物ヲ溶解セシムルニハ。太氏和蘭秤一盃ノ水ヲ要ス。或ハ膠ヲ燒酒ニ融解セシメテ水ニ

煮ルニハ。水四分三盃。燒酒四分一盃ヲ用ユベシ。○二物ヲ交ヘタル後。燒酒或ハ酢ニ和セル油煙。舊秤三。乃至四羅度ヲ加エ。重子テ良好細糊ニ羅度ヲ少許ノ水ニ稀釋シタル者ヲ和シ。諸物ヲ善ク調勻シ。緩火上ニ致シテ蒸散ス。○此物ハ直ニ蒸散セシメ。或ハ温處ニ致シ。或ハ天日ニ曝乾セシメテ。凝塊ト成シ收ムベシ。○此塗料ハ。適宜ノ水。或ハ麥酒ニ和シテ薄ク革上ニ塗ルトキハ。殊ニ妙ナリ。○車駕ノ革ハ。是ガ為ニ大ニ光輝ヲ添ヘテ。其觀ヲ新ニス。又。薰テ能ク革ノ保固ヲ資ク。

九十六

機盤ヲ活利ニスル塗料ノ法

英吉利ノ機盤塗料ノ法左ノ如シ。○頃一分ヲ家猪脂十分ニ

研勻シ。手ヲ停メズ攪混シツ。絶細ニ磨粉セル石墨善ク水ニ洗過シ。手ニ摩シテ糙汰ヲ覺ヘザル者ヲ良トス。十分新製錫布十分ヲ調和ス。

九十七

絨布ヲ汚セル脂油ヲ除ク法

帝列並底那。舊秤四羅度。銳烈燒酒半羅度。硫酸亞的兒半羅度。及ヒ杉油四分一羅度ヲ玻璃壺ニ納シ。混和シ。密封シ貯フ。○此液ヲ用テ。汚點セル脂油ヲ除クニ宜シク。殊ニ男衣ノ襟ヲ濯フニ妙ナリ。

九十八

外氣ニ曝觸スル木材ヲ髹ル塗料ノ法

風化石灰三分。木灰二分。細砂或煤灰一分ヲ調勻シ。細篩ニテ

篩^ル。是^レニ^レ控油ヲ和ス。其稠尋常ノ刷^{ハケ}子ヲ以テ從事スルニ適宜ナルヲ度トシ。極テ善ク攪混ス可シ。○之ヲ以テ木材ヲ髹ルコト都^テニ^レ回ナル可シ。但シ。最初ノ一回ハ薄ク塗り。第二回ハ務メテ厚ク塗りヲ嘉トス。○此塗料ハ。溼潤及ビ雨氣ヲ防ギ。日光ニ曝シテ損傷セス。又其價尋常ノ染料ヨリハ遙ニ廉ナルノ便アリ。

〔九十九〕 海綿ヲ漂白スル法

柔軟ニメ良好ナル海綿ヲ善ク撃テ。土分ヲ拂^ヒ。五日乃至六日ノ間冷水ニ浸シ。屢絞搾シ。時々新水ヲ替ヘテ其質ヲ軟^カニシ。而ル後鹽酸一分ニ水三十分ヲ和シタル液中ニ浸スコト

二十四小時間^{即チ一晝夜}ニシテ。其尚含有スル加爾基^{案ルニ。加爾基ハ稀鹽酸}

解^ニス^ヲ除キ。重^キ子テ八日ノ間。之ヲ稀^キキ亞硫酸ニ浸シ。又清水

ニ浸スコト二十四小時。其内屢新水ヲ替ヘ注ギ。其酸氣ヲ脱

セシメテ後。徐々ニ之ヲ乾カスヘシ。○其亞硫酸ハ。一升ノ木

炭ニ硫酸一升ヲ灌ギ。其發絞スル所ノ瓦斯ヲ十八升ノ水ニ

受ケ。抱合セシメテ製スベシ。○又一法。精緻ニメ柔軟ナル海

綿ヲ先冷水ニ浸シ。次ニ温湯ニ漬シ。其湯後溷^ラザルニ至リ。

最後ニ。其湯中ニ炭酸曹達ヲ加工。又清水ニ浸シ。終ニ少許ノ

硫酸ヲ和シ酸性ト成シタル水ニ洗ヒテ絞搾ス。○サテ別ニ

漂白水^{蘇魯林加里或ハ蘇魯林曹達}ヲ加ヘタル甚稀薄ナル

硫酸水ヲ盛リタル一槽又硫酸及ヒ亞硫酸ヨリ成レル液ヲ盛リタル一槽ヲ具ヘ此海綿ヲ先第一槽ニ漬スコト半小時間ニメ次ニ之ヲ第二槽ニ移ス然ル後善ク淋洗シテ乾カスベシ。

百 發酵セル食料ノ滋養ニ益アル説

發酵セル食料ハ滋養ノ功生料ヨリハ多シ便チ乾酪ハ生酪ヨリハ其功勝リ獸類生食スレバ脂腴スルコト遅クメ且少ナシ○家猪ニ馬鈴薯ヲ生食セシムレバ瘦セ煮テ釀熟シ食セシムレバ速ニ脂腴スルモ此理ナリ。

百一 石炭ノ碎屑ヲ燒ク法

煤炭ノ碎屑ハ水ヲ和シ泥團ト成シ煖室火箱中ニ燒ケバ水氣ヲ發蒸ノ箱中ニ鬱結スル温素ヲノ無益ニ耗失セシムル故ニ其利用鮮ナシ○是ニ良好ノ泥炭及ヒ水ヲ調和シテ適宜ノ團塊ト爲シ乾カシ尋常ノ泥炭ノ如ク煖室火箱或ハ竈窯ニ用レバ善ク焚燒スル一箇ノ好蒸料ヲ得ルナリ○煨煤ノ碎屑モ亦同法ヲ用ヒテ好蒸料ヲ造リ出スベシ。

百二 石膠ノ法

蠟舊秤一分脂一分鐵落四羅度ステーンロード四羅度ヲ一壺ニ熔シ又他ノ一壺ニ硫黄八羅度ヲ熔シ第一壺ノ劑ニ合シ手ヲ停メズ攪混メ仍四分小時間緩火上ニ置キテ後冷水

中ニ投ジ。手ヲ以テ善ク其塊ヲ調煉ス。○石瓶。石像等ヲ接著
セント欲セバ。此膠適宜ヲ熔シ。薰テ燠メタル破口ニ塗リテ
接著シ。善ク之ヲ緊合スベシ。

百三 煖室火箱或竈窠等ノ破隙ヲ塗ル填塞料ノ法

冬時煖室火箱ノ筭管。破隙ヲ生シテ。烟氣滿室ニ散布スルハ。
殊ニ鬱陶ニ堪ヘ難キモノタリ。○其破口隙際ヲ塞ギテ。固ク
保住セシムルニハ。左ノ填塞料ヲ施スヲ嘉トス。○絶細ノ木
灰。及ヒ結麗土各同量ヲ取り。少許ノ鹽油ヲ和シ。浚テ泥ト為
シ。隙際ヲ固ク填塞スベシ。○此泥ハ。剥落スル患ナク。又非常
ニ堅實ナリ。但シ。此料ヲ施ストキハ。火箱ヲノ熾熱ニ過ザル

ヨウ著意スベシ。○少許ノ石墨ボットヲ加ヘテ。是ニ鐵色ヲ與フル
モ亦妙ナリ。

百四 鐵ノ填塞料ノ法

硝砂ニ羅度。硫黄華一羅度秤ニ鐵落十六羅度。及ヒ少許ノ煤
土燒キタル石炭ノ滓ヲ和シテ善ク調勻シ。乾カシ貯。○用ルニ臨ンテ。
此劑一分ニ。細粉鐵落二十分ヲ加エ。又水八分。七。醋八分。一ノ
溶液ヲ調シ。浚テ泥ト為シ。鐵器ノ接際。及ヒ破口ヲ塗塞ス。○
此塗塞料ハ。火力ニ堪エ。殊ニ能ク鐵ニ抱合ス。

百五 利諾布ニ記號ヲ印スル墨汁ノ法

利篤亞斯ノ溶液二分ニ水四分ヲ和セル者ヲ用ヒ。利諾布ノ

記蹄ヲ印セント要スル部位ヲ濡メ後ヨク乾カシ消酸銀印
地獄石ノ溶液ニ少許ノ水及ヒ亞刺伯護謨ヲ加ヘタル者ニ
テ其部ニ記スベシ

百六 磨革ヲ製スル法

舊秤一斤ノ羊脂ヲ熔化シ是ニ黃蠟八羅度篩過セル絶細金
剛砂一斤及ヒ英吉利靈天蓋半斤ヲ加エ攪勻ス○冷定ノ後
木板ニ緊ク張り延べ又ハ膠著セシメタル厚キ革上ニ塗り
滑澤ナル圓鐵ヲ以テ其上ヲ摩擦シ勢メテ之ヲ革中ニ竅入
セシメ然ル後善ク洗淨シタル絶細金剛砂ヲ其全面ニ抹布
シ又圓鐵ヲ以テ摩入ス○此法ヲ行フコト仍三回ニノ革上

ニ被衣スルコト半レイシノ厚ニ至ルヲ度トス

百七 齒ヲ磨白スル法

嫩キ葡萄蔓ヲ焼テ炭ト爲シ勢テ絶細ニ研磨シ少許ノ玫瑰
蜜ヲ加ヘテ齒ヲ磨ケバ其齒頗皓白ト爲リ且此害ヲ遺スコ
トナシ

百八 ハヘランド石人ノ磨齒粉ノ法

ハヘランド石人氏ガ磨齒粉ハ極メテ必用ノ物ニノ通常概細
ニ研搗セル赤珊瑚及ヒ浮石末等ヨリ成レル磨齒粉ノ如キ
有害ナルモノ、此ニ非ス○製法絶細ニ研磨セル赤檀一分
幾那半分ヲ合セ之ニ丁子油或ハベルガモト油二滴ヲ調和

高麗新書
ス。○齒齶緩ミテ出血シ易キモノニ用ルニハ四分一ノ粉細
枯礬ヲ加フベシ。

百九 家猪肉ヲ貯藏スル法

夏時家猪肉ヲ貯藏スルニハ先屠者ヨリ殺シ來ラバ即時ニ
其肉ヲ煮炙各其宜キホトノ大小ニ截斷シ底深キ甕壺ニ納
レ是ニ乳汁ヲ注ギ肉面ノ上ニ超ルコト二指横徑ナラシム
○今一嚮ノ肉ヲ用ヒント欲セバ乳中ヨリ之ヲ把リ出シ淨
水ヲ以テ乳汁ヲ洗除シ隨意調理スベシ○此簡法ヲ用テ肉
ヲ新鮮ニ貯フルコト八日ノ上ニ出ルノミナラズ又能ク其
味ノ甘美ヲ益ス。

百十 粗大ノ鐵具ニ塗ル染料ノ法

瀝青及ヒ巴麻油各等分ヲ合セ熔化シ適宜ノ油煙ヲ調勻ス
○外氣ニ曝置スル鐵器設ハ旄旗欄干柵門ノ鑲具等ニ硬強
ナル刷毛ヲ將テ此料ヲ塗ルコト二回或ハ三四回ナルベシ○
此染料外氣ニ中リ夏熱ニ曝シテ損傷セズ熔化セズ日ヲ經
ルニ隨テ益堅靱ト爲リ光輝アルコト假漆ノ如ク鏽ヲ防グ
コト尋常油漆ヨリモ遙ニ超越ス。

百十一 焚燒ヲ防グ假漆ノ法

木器ニ塗リテ焚燒ヲ防ギ且其器中ニテ水ヲ煮沸セシムル
ニ至ルベキ假漆ノ法左ノ如シ○魚膠或ハ他ノ膠ヲ水ニ溶

シ。次ニ。水ト明礬ノ溶液ヲ造リ。二液ヲ混和シテ。火焰ニ觸ル所ノ木器ニ塗ル。○一回塗上シテ乾ケル後。其液ニ少許ノ醋ヲ加ヘテ。再之ヲ塗ルベシ。

百十二 褐色假漆ノ法

失結落古舊秤六羅度。勿搦祭亞帝列並底那十分羅度ノ四。即。再留酒精一升ヲ調温メ。諸物悉ク溶和スルヲ度トス。

百十三 護謨會刺斯知加ノ假漆ヲ製スル法

此假漆ハ。水ニ涵ス所ノ諸物ノ為ニ必需ノ者トス。○巴麻油一升。細剉セル護謨會刺斯知加一升ヲ併セ火上ニ熔化シ。次ニ舊秤二升及四分一ノ熱セル荏油ヲ和シ。又細粉明礬一升。

及ビ同量ノ細粉酸化満俺ヲ加工攪勻メ一小時間火上ニ置キ。全料平等ニ熔和シ。粥稠ヲ為スニ至ラシム。冷定ノ後。帝列並底那半升ヲ和シテ。其劑ヲ稀釋スベシ。○此假漆ヲ用テ。繩索帆布色貨布ノ屬ヲ塗レバ。能ク水濕ニ堪フ。故ニ。遮日遮雨ノ天幕及ヒ諸般ノ外套等ヲ塗ルニ。亦必要ノ者タリ。

百十四 銅或他ノ金屬ニ塗ル假漆ノ法

尋常落古。和蘭秤十六羅度ノ良好失結落古ヲ。鐵葉ノ桶盃或ハ玻璃壺ノ半ニ充シメ。密蓋ノ燒酒一盃和蘭秤ヲ澆ギ。之ヲ火邊或ハ湯槽中ニ置キ。其熔解ヲ催進ス。○此壺ヲ毎一小時。六回乃至八回振盪メ二十四小時ヲ經ルノ後。沈滓ヲ去リ。澄

液ヲ分チ貯フ。○此落古ハ。銅。黃銅。錫。鐵。葉。等ノ諸般ノ器具ヲ
塗リテ甚妙ナリ。其色本來赭褐ナルガ故ニ。器具ニ塗ルコト
厚キホト彌暗黒トナル。○合銅ニ之ヲ塗レバ。宛褐色ノ土器
ノ如ク看ユ。

精微澄亮ノ落古

尋常失結落古ニ代エテ。淨製透亮ノ卓子

落古今時船齋スル片平ナヲ上法ニ據テ。最頂銳烈燒酒ニ溶

和シ。無膠紙ヲ用テ漚過スレバ。無色透亮ノ假漆ヲ得ルナリ

○此兩種ノ假漆ハ。貯藏一年ヲ經テ變スルコトナシ。

此落古ニ各色ヲ施ス法左ノ如シ。

一 姜黃四羅度半和蘭護謨達刺侃篤六羅度和蘭ヲ燒酒半盃和蘭

ニ調シ。屢攪混シ。溶解セシム。此料ハ。鮮美ノ黃色ヲ呈ス。

二 達刺侃篤ヲ除キ。單ニ前量ノ姜黃ヲ溶セル者ハ。淡黃色ヲ
呈ス。

三 雜腹蘭四羅度半ヲ溶セル者ハ。殷褐色ヲ呈ス。是ニ同量ノ
姜黃ヲ加レバ。鮮活ナル黃色ヲ呈ス。

四 サップグリーン草ヨリ製シタル綠色ノ顔料四羅度ヲ。燒酒半盃ニ溶セ

ル者ハ。鮮綠色ヲ呈ス。是ニ三號ノ溶液一二滴ヲ加レバ。帶黃
ノ活色ヲ現ス。

五 藤黃一羅度半。達刺侃篤六羅度ヲ。燒酒二盃ニ溶セル者ハ。

鮮美ノ黄金色ヲ呈ス。

此各色料ハ各別ニ玻璃堰ニ貯ヘ。其要スル所ノ色ニ應シテ。細心ノ之ヲ假漆ニ調スベシ。但シ。其一ニ滴ノ増減ニ由テ。多少其色ヲ變更スルモノタリ。假漆ノ用法左ノ如シ。○先金具御器ヲ善ク磨刷シテ。熾熱セル鐵板。或ハ炭火上ニ烘リ。手ヲ用テ把持スベカラザルボドノ温度ニ至ラシメテ。中ニ拇厚半拇ノ刷毛ヲ用テ。無色。又ハ有色ノ假漆ヲ薄ク平等ニ塗ルベシ。但シ。屢温メ。屢塗リ。其欲スル所ノ度ニ達セシムルヲ要ス。○之ヲ塗ルニハ能ク塵埃ヲ絶タル地ニテ從事スベシ。若其器面ニ疵痕ヲ生ズルニ於テハ。再其業ヲ復シ。新ニ革ヲ塗ルベシ。即其器ノ假漆ヲ磨剝シ。淨刷スルコト。舊物ヲ修繕ス

ルト異ナラス。○其法。剥篤亞斯三羅度和蘭ヲ水一盃ニ溶カシタル液ニテ。其器ヲ煮ルコト數秒時ニノ。善ク淨刷シ。乾ケル後。再前法ニ據テ落古ヲ塗上ス。又工匠ニ由テハ。是ニ少許ノ血竭ヲ加ヘテ色ヲ添ル者アリ。

百十五 彈カアル假漆ノ法

絹布及剪絲花等ニ塗上スル彈カアル假漆ハ。從來帝列並底那油中ニ溶和セル會刺斯知加護謨ヲ用ヒシカドモ。之ヲ塗レル物ハ。長ク其用ヲ成シ難ク。又初頭ヨリ一種假漆ノ不佳ナル本臭ヲ含ムガ故ニ。或ハ十分其用ニ供スルニ堪ヘザルモノアリ。如今ハ。他ノ簡ニノ費用少ナキ一法ヲ用ユ。○即尋常白

膠ヲ醋中ニ溶セル者ニノ。當時工匠往々之ヲ稱用ス。○製法。細判セル膠ヲ醋中ニ投ジ。温メ溶シ。冷定スル後直ニ用ニ供スベシ。用ルニ方テ。其液ニ臨時欲スル所ノ色ヲ與フ。○此假漆ハ。價廉ニノ。絶テ腐敗スルコトナク。亦速カニ乾ハクノ利アリ。但シ。膠ハ固ト水ニ解ケ易キ者ナルガ故ニ宜。濕潤ヲ避ク可シ。

百十六 鐵器ニ塗ル假漆ノ法

篩過セル細粉ステーションメール及ヒ銀密院同量ヲ研磨シ。在油ヲ和シテ稠厚ノ塗料ト成シ。帝列並底那ヲ加適宜ニ稀釋シ用ユ。○此和劑ヲ塗リタル鐵器ハ。外氣ニ曝置シ。或ハ數海

水ニ涵スモ。經年變スルコトナシ。

百十七 錫及白金ヲ鍍スル法

醫官^{ボトセル}名^人氏^カ溼道ノ鍍法左ノ如シ。○酸化錫^{錫灰}ヲ苛性加里^油ニ煮テ。錫及ヒ加里ノ飽和溶液ヲ造リ。而ル後。清水ヲ以テ其液ヲ稀釋シ。錫ノ^鏝屑ヲ入レ煮テ。銅若クハ黃銅器ヲ其液中ニ投スレバ。二三密^扭篤間ニ。早^巳ニ。頗^ル光輝アル錫ヲ固ク鍍著ス。便^チ之ヲ取リ。淨洗シ乾カスベシ。○又。蘓魯林^{白金}消鹽酸^{白金}一分ヲ。太^火水百分ニ溶和シ。煮テ。銅若クハ黃銅器ヲ投スレバ。一二秒時間ニ。白金ヲ鍍著ス。便^チ洗過結麗ト^ラ用テ之ヲ磨キ。淨洗シ乾カスベシ。○此法ヲ用テ。測量儀

器ニ白金ヲ鍍シ。鏽ヲ防クニ極メテ稱用ス。蓋舎密局ニテ所用ノ大罐ニ此法ヲ施セバ。亦必妙ナラン。

百十八 汚斑ヲ除ク法

諸般ノ汚斑ヲ除クニハ。綠石鹼案ニ尋常下品ノ者ニ少許ノ研細食鹽ヲ和シ斑上ニ塗り。一二小時ヲ經ル後先之ヲ稀キ灰汁ニテ滌ヒ。而ル後清水ニテ淨洗スベシ。

百十九 猩紅絨及天鵝絨ノ汚斑ヲ除ク法

セー。フコロイト和名ハマナゲシノ搾汁ニ少許ノ綠石鹼ヲ加工。此液ヲ用テ斑ヲ滌ヒ。一日ヲ經ルノ後再滌フコト一二回ニノ。二三日ヲ經レハ。其斑全ク消スベシ。

百二十 車旋船暈ヲ治スル法

一葉ノ厚キ無膠紙ヲ取り。燒酒ニ蘸シ。之ヲ折重子テ胃部ノ上ニ卷布シ。車船ニ駕シ。燥ケバ復潤スベシ。

百二十一 黄蜂ノ螫痛ヲ治スル法

英吉利新聞紙ニ據レバ。螫痕ヲ鑰管ニテ堅ク握シ。二三密扭篤間保持スレバ。其痛及ヒ焮腫ヲ消スベシ。

百二十二 野生ノ禽畜殺セル者ヲ貯藏スル法

佛蘭西新聞紙ニ據レバ。其内臓ヲ去リ。是ニ代エテ小麦ヲ充實セシメ。之ヲ同ジク小麦中ニ埋藏スレバ。一月乃至二月ノ久ヲ經ルモ。腐敗セズ。亦其皮毛剥落スルコトナシ。

百二十三 樹木ヲ害スル野獸ノ患ヲ防グ法
犬屎ヲ水ニ和シ。樹木ノ下枝ニ塗レバ。必^ク免類其幹ノ外皮ヲ
剥傷スルノ患ナシ。

百二十四 凍瘡ヲ防グ軟膏ノ法

白蠟舊秤四分一羅度。鯨腦半羅度。扁桃油二名ヲ茶盃ニ盛リ。
煖火上ニ熔和シ。火ヨリ下シテ。少許ノ薔薇水ヲ除々ニ滴シ
加エツ。手ヲ停メズ善ク攪混シ。冷ルニ至ラシム。○此ボマ
ア^テ軟^膏ヲ。夜間手或ハ口唇等ニ塗り。翌朝乾ケル布巾或ハ温
湯ニ滋潤セル者ヲ用テ拭ヒ去ルベシ。

百二十五 酒痕ノ汚斑ヲ除ク法

汚斑ノ處ヲ一夜间。豆若クハ豌豆ノ煎汁ニ浸メ後。清水ヲ用
テ除々ニ洗滌スレバ。全^ク其痕ヲ脱ス。

百二十六 鐵具ニ塗ル填塞料ノ法

細粉加爾基一分。細粉酸化滿俺二分ニ荏油ヲ和シ。泥ト成セ
ル者ハ。鐵具ノ縫隙裂隙破口ヲ塗ルニ必需ノ品トス。○此填
塞料ヲ煖室火箱等ニ用レバ。甚速ニ乾キ。且堅實トナルコト
鐵ノ如シ。

百二十七 鐵具ニ光輝アル黒色ヲ與ル法

鐵具ニ先^ニ荏油ヲ薄ク遍ク塗り。之ヲ薪火上八。乃至十寸ノ
處ニ鐵線ニ懸ケテ。烟中ニ在ラシムルコト一小時間ノ後。又

殆其炭ニ觸ル、ホトノ處ニ下垂セシメテ保持スルコト四分小時間ニノ之ヲ冷タル帝列並底那中ニ刺入ルベシ。○是ニ由テ其黒光仍全カラサルトキハ再之ヲ數密扭篤間熾炭上ニ致シテ復帝列並底那中ニ湮セシム。○此法ヲ施セル者ハ大氣ニ中リテ鏽化セザルノミナラズ亦能ク薄キ酸精ニ觸ル、モ變ズルコトナシ。○但シ是ヲ行フニハ鍛鐵ヨリハ鑄鐵ヲ良トス。

百二十八 鐵器ヲ堅剛ニスル法

此法ハ細瑣ノ物件ニ施コスニ癡物ト爲ルノ患ナクノ殊ニ良ナリ。即通常冷水ニ淬スル法ニ代エテ先之ヲ熾紅シテ雞

子白ヲ調勻セル水中ニ刺入ルベシ。○蓋是ニ由テ毫モ蒸霧ヲ發綻セズ又嘶沸スルコトナシ。是其雞子白瞬間ニ凝固シテ鐵ノ周圍ニ結著スレバナリ。

百二十九 穀類及蔬菜ヲ播種スル法

諸般ノ試験ヲ以テ之ヲ觀ルニ種子ヲ暮ニ方テ地ニ播キ土ヲ覆ハズ一夜露濕ヲ含マシメテ翌朝土ヲ敷ケバ其益三アリ。第一種芽ヲ生スルコト早ク且速ニ長ジ。早乾ノ時季ニ在テモ登熟ノ期八日乃至十日ヲ進メ亦禽鳥ノ害ヲ免ル、コト多シ。○第二稈莖長ク穗大ニ子實ス。第三蕪菁ノ種子土蟲ノ害ヲ蒙ラズ。

百三十

馬鈴薯ヲ用テ錫布水ヲ製スル法

馬鈴薯ヲ善ク洗ヒ外皮ヲ去リ。剝擦子ニテ細ニ削リ。漚袋ニテ摩搾ス。其漚ハ粘糊ト為スベク。其澄ハ即錫布水ナリ。○此水ヲ用テ絹布ノ風領エリ、ホウラルト東印度ニ産スル、莫大小等ヲ滌ヘバ。妙ニ其色ヲ消褪セズシテ。復從前ノ張力及ヒ光澤ヲ生ゼシム。○概一雙ノ莫大小ヲ洗フニハ。馬鈴薯二箇ヲ用ヒテ足ル。但シ其赤斑アル者ヲ用ルコト勿レ。然ラザレバ其所洗ノ物。赤色ヲ帶ルノ恐アリ。

百三十一

透明ナル錫布ヲ製スル法

尋常堅固錫布白ブリストルセト。フ英吉利ブリストルヲ薄

ク鈍リテ乾カシ。細削シ。其細屑二斤。酒精三十六。二斤半ヲ調シ。微温ニ溶和シテ。型模ニ鑄ス。○若之ヲ各色ニ染做サント欲セバ。豫其酒精ニ。隨意要スル所ノ色料ヲ加フベシ。但シ。最初ニ少許ノ香水ヲ和スルヲ良トス。○爾後之ヲ適宜ノ大ニ截斷シ。各種ノ型模ニ致スベシ。○此錫布ハ。乾クニ隨テ。頗其容ヲ縮ムル者タリ。

百三十二

獸毛或植材類ノ腐朽ヲ防ギ久キニ堪シムル法

此適法ハ。鹽酸亞鉛ヲ用ルニ在リ。○亞鉛鹽舊秤一斤ニ。太公水十二盃ヲ和シタル溶液ヲ。罌桶ノ三分ニ充タシメ。十乃

至十二時間鎮定ノ後。木材。利諾。帆布。繩索。苧麻。毛髮。及ヒ其他貯蔵久キニ堪シムルコトヲ要スル物件ヲ其中ニ漬シ。極メテ之レニ飽充セシム。○木材ハ。其大小ニ隨テ。液中ニ漬スコト十日。或ハ十二日ノ後。空氣通暢ニシテ。遮覆セル地位ニ乾ハカシ。毛髮。苧麻ノ物件ハ。四十八小時ノ後。同ジク通暢遮覆ノ處ニ乾カスベシ。○若シ。繩索。著シク粗大ナル者ニ在テハ。之ヲ絢スル前ニ。先其苧麻若クハ細糸ヲ液中ニ漬シ。乾ケル後。各様ニ打絢スルヲ良トス。○船舶家屋ノ造築ニハ。殊ニ荷筒。或ハ寤床等ノ如キ。直ニ水濕ニ觸ル。處ニ。此材ヲ用ヒテ妙ナリ。

百三十三

傳染病ヲ豫防スル法

杜松實輕ク挫碎セル者 二羅度子搗碎セル者 半羅度 薄荷葉 一握ヲ蓋覆セル瓷鍋ニ入レ。煮一煮シ。細布ニテ漚過ス。○傳染病ヲ受タル患者ヲ看護スル者。此煎汁ヲ用テ。日ニ數次含嗽シ。及ヒ兩手ニ塗擦シ。又ハ布巾ニ蘸メ時々之ヲ嗅ケバ。其障氣ヲ蒙ルコトナシ。○又。醋一彬下 篤下ニ丁子半羅度ヲ瓷鍋ニ入レ。蓋覆セズ。炭火上ニテ緩々ニ煮レバ。室内ノ染氣ヲ驅ルベシ。

百三十四

苧麻ノ藥能アル説

苧麻ハ。普通雜草中ニ屬シテ。嫌ヒ厭フベキ者ナレドモ。對症ニ應用シテ。特絶ノ効アルガ故ニ。實ニ。之ヲ藥草中ノ一二算

入シテ可ナリ。○一日ニ。此草四分彬十分彬ヲ濃煎或ハ濃浸メ内服スレバ。強壯保固シ。稀煎。稀浸ハ。大便ヲ滑利シ。殊ニ水液ヲ調和シ。閉達疏泄シ。血液ヲ鮮活ニシ。水脉ノ閉塞ヲ開ク。○此榨汁ヲ一匙宛内服スレバ。下血ヲ鎮靜スルノ殊効ヲ奏シ。琶布或ハ卷布ニ調シ外用スレバ。焮衝ヲ消シ。腫瘍ヲ解キ。咽喉焮衝。及ヒ咽喉諸病ニハ。頸上ニ卷布シ。同時ニ之ヲ用テ含漱スル等。殊ニ妙功アリ。

(百三十五) 木及石ノ縫塞料ノ法

木炭絶細ニ研ホシ四百八。風化石灰絶細ニ篩過セル者一百八ヲ調和シ。是ニ巴麻油テエバヲ加エ。臼ニテ搗煉シ。適宜ノ稠ナル泥ヲ成スヲ

度トス。

或ハ。石灰ニ代エテ。搗細義布硫酸加ヲ用ヒ。巴麻油ニ代エテ。

石腦油。帝列並底那。瀦チヤ等ヲ用ヒテ可ナリ。

此縫塞料ハ。温ニ乘シ。罌ヒヤクヲ用テ塗ルベシ。

(百三十六) 鴿ヲノ好テ己ガ棲房ニ歸ラシムル法

ス。ピイキ油。丁子油。遏泥子油ヲ調和メ。其棲房中ノ處々ニ散激シ。周邊ニ塗抹スレバ。鴿好テ其房ニ出入棲宿シテ。其居ヲ移スコトナシ。又。遏泥子。小苗香ヘルト。テイムノ名各一匙ヲ研末シ。黃膠ニ調シテ。小丸子ヲ造リ。房中ニ置ケバ。殆鴿ノ心氣ヲ奪フベキ香餌ト爲リ。鴿一ニ此餌ヲ食ヘバ。曾テ。其房ヲ離

レ去ルコトナク。又。縦令^レ數里外ニ移ラシメ。若クハ賣送ルト
モ。其鴿早ク已^レニ其香氣ヲ知リテ。他ノ鴿伴ヲ誘ヒ歸ルニ至
ル。

百三十七

氣燈盤ニ用ル蒸料ノ法

亞爾箇兒。帝列並底那油。各適宜ヲ合シ。善ク振盪シ。鎮定スル
コト少時ニメ。亞爾箇兒太氏其八分一ノ帝列並底那油ニ抱
合ス。乃^チ之ヲ傾ケ移シテ。用ニ供ス。

帝列並底那油ノ亞爾箇兒中ニ溶解スルノ度ハ。亞爾箇兒ノ
強弱ニ關係ス。即^チ其最強度ノ者ニ在テハ。四分一量ノ帝列並
底那油ヲ溶解シテ。全ク澄亮ノ溶液ヲ得ベシ。○其燈盤ハ徑

半拇或ハ四分三拇ノ管子ニ。解綻セル吉貝^{カク}紫ノ心ヲ挿シ。其
管此溶液ヲ盛レル槽中ニ通入ス。管ノ上部ニ銅ノ圓片ヲ蓋
帽状ニ覆ヒ。螺住シ。其周圍ニ數孔ノ細眼ヲ穿開ス。○サテ。其
上部。酒精炎ノ為ニ熾熱スレバ。此溶液ノ蒸氣。燈心ヲ貫キ。冲
騰シ。細眼ヲ通ツテ。蒸氣ノ如ク一般ニ。五六若ク
ハ。多クノ火炎ヲ點シ來ル。○爾ルニ。其燈心ハ。常ニ其液ニ浸
潤シ。且^ツ火炎ニ觸レザルヲ以テ。燒盡スルノ患ナシ。
此和劑ハ。アルガン^ト。英吉利人名。○千七百八十三年。倫ノ燈
教府ニ於テ此種ノ燈ヲ創製ス。ノ燈
ニ裝シ。澄明ニメ大ニ。且。爛燦タル光炎ヲ現ズ。○此炎ハ。油炎
ヨリモ其勢盛ニメ。而モ。毫モ薰烟ヲ發スルコトナシ。

此和劑ノ光輝ハ。鯨腦燭ノ光輝ニ比スレバ稍劣レリ。○燈心ハ。焚燃ノ爲ニ黒焦セズ。且燈盤濕潤セズ。汚染セズ。○燈心ハ。絲ヲ用ルヲ良トスレドモ。石綿ヲ以テ是ニ代レバ。其功殊ニ卓絶ナルベシ。

(百三十八) 黄金ヲ淨潔スル法。

汗或ハ他ノ膩垢ノ爲ニ汚レタル金鍊。金環。金鍼等ノ物件ヲ淨潔スルニハ。熱セル苛性加里酒ヲ用ユベシ。○或ハ其物件ヲ硝砂ノ溶液中ニ煮ルモ可ナリ。然レドモ加里酒ハ汚穢ヲ除クコト殊ニ速ナルノ利アリ。○強烈ナル酒醋ヲ用テ他ノ不潔ノ汚物ヲ洗除シ得ベシ。○又極メテ稀薄ナル消酸ヲ用

ルモ妙ナリ。但シ其液ニ毫モ海鹽鹽酸。硝砂等ヲ含マザル者ヲ擇ヒ用ユベシ。然ラザレバ。是ガ爲ニ一種ノ王水ヲ生ジテ。其金ノ一分ヲ溶解スルノ害アリ。

萬寶新書

喜隆村菲木言

Blank manuscript lines

宇田川興齋譯述

萬延元年庚申閏三月

京寺町通松原下ル

勝

村治右衛門

大坂心齋橋北久太郎町

河内

屋喜兵衛

江戸日本橋通壹丁目

須原

屋茂兵衛

同芝神明前

和泉

屋吉兵衛

同浅草茅町二丁目

須原

屋伊八

同日本橋通二丁目

山城

屋佐兵衛

發行書林

